

高知県埋蔵文化財センター年報

3

1993年度

1994

財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

巻頭カラー



舟戸遺跡



下分遠崎遺跡・SD3遺物出土状態

序

本年度からは、四国横断自動車道関連遺跡の発掘調査も本格化してまいりました。調査件数も前年度に比べ、やはり増加の一途をたどっており、開発に伴う緊急調査に追われる状況が続いています。さらに今後も、県土の開発に伴い発掘調査事業は増加すると考えられることから、昨年度に引き続き人員増が行われるとともに、着手していた高知県立埋蔵文化財センターも完成することができ、調査体制の整備、強化が図られました。

平成5年度における県下の発掘調査の中では、中村市の船戸遺跡では縄文時代から中世にかけての遺構、遺物が検出されており、特に縄文時代後期の土器には線刻画を施したのも出土し、また、土佐国分寺跡では海獣葡萄鏡が検出されるなど、多大な成果をあげることができました。これらの成果は各発掘調査の現場で記者発表や現地説明会、展示会等を通じて地元の方々をはじめとし、県民の皆様に公表することにより、埋蔵文化財への関心を高める一助になったのではないかと考えます。また、高知県立歴史民俗資料館との共催による企画展を今年も開催することができ、広報・普及活動も進めることができました。

発掘調査事業を中心に普及・啓蒙事業等を進めるうえでは、関係者各位のご協力とご支援があればこそ成果をあげることができたと考えますので、今後も皆様のさらなるご指導、ご援助をお願い致します。

最後になりましたが、本書は平成5年度の事業概要をまとめたものであり、今後の埋蔵文化財保護を進め、その保存と活用のための一助となれば幸いです。また、事業の実施にあたってはご協力を頂いた皆様にお礼を申し上げます。

平成6年11月

財団法人高知県文化財団
埋蔵文化財センター
所長 原 雅彦

目 次

序

I 財団法人高知県文化財団	1
1. 財団法人高知県文化財団の概要	
2. 財団法人高知県文化財団の組織	
II 埋蔵文化財センター	3
1. 埋蔵文化財センターの概要	
2. 埋蔵文化財センターの組織	
III 年間事業の概要	5
1. 発掘調査事業	
2. 発掘調査報告書刊行・資料管理事業	
3. 普及啓蒙事業	
4. 研修事業他	
IV 発掘調査概要報告	15
V 条例・規則・規程等	43

例 言

1. 本書は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成5年度（1993）事業の概要をまとめたものである。
2. 発掘調査については、当センターの受託事業、派遣事業以外にも県教委及び市町村教委で実施した調査も、県下の状況を把握するために集録した。
3. IVの発掘調査概要については、各担当者が執筆した。また、その他の執筆、編集は森田尚宏が取りまとめた。

I 財団法人高知県文化財団

1. 財団法人高知県文化財団の概要

(1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大など社会経済情勢の変化を背景に、芸術文化活動に直接参加し、或いは歴史的・文化的遺産に自ら親しむことを通じて、生活の中に潤いとやすらぎを求めるといふ県民の文化的ニーズがかつてなく高まってきている。

このような時代のすう勢の中で、これからの文化行政は、より県民の期待に応えるものでなければならぬが、特に、その推進に当たっては、単に行政のみが主導していくのではなく、行政と民間がそれぞれの叡智、力を出し合い、一致協力していくことがなによりも必要である。

高知県文化財団は、こういった使命と目的のもとに、県民文化の振興に資する芸術文化関連諸事業を、県、市町村、民間の力を幅広く結集して総合的、体系的に運営実施すると共に、県民の文化活動の拠点となる各種の芸術文化施設についてもその特性を活かし、公共性を確保しつつ、県民サービスの向上につながる、柔軟で弾力的な管理運営を行うなど、今後の本県の芸術文化活動の推進母体としての役割を担おうとするものである。

(2) 事業内容

- 1) 音楽、演劇、美術その他の芸術文化事業
- 2) 教育、学術及び文化の国際交流事業
- 3) 歴史民俗資料館、美術館等芸術文化施設の管理運営事業
- 4) 埋蔵文化財の調査研究、整理保存、展示等の事業
- 5) その他文化振興に関する事業

(3) 設立年月日

平成2年3月28日

(4) 事務局所在地

高知県 高知市高須353-2

高知県立美術館内

2. 財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

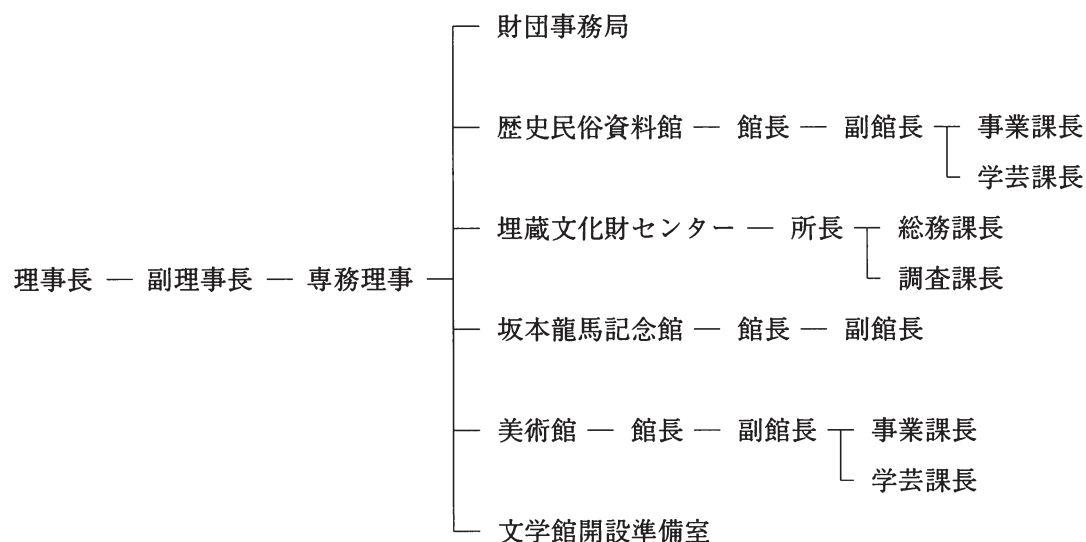
1) 理事会役員

理事長 1 名 副理事長 2 名 専務理事 1 名 理事 6 名 監事 2 名

2) 事務局

総務部長（専務理事）－総務課長（美術館副館長）－事務職員

3) 財団組織図



(2) 財団役員

役職名	氏名	備考
理事長	橋本 大二郎	高知県知事
副理事長	山口 勝己	高知県教育長
副理事長	濱田 耕一	四国銀行頭取
専務理事	小橋 一民	高知県教育委員会事務局参事
理事	横山 龍雄	高知市長
理事	筒井 直和	吾北村長
理事	橋井 昭六	高知新聞社社長
理事	吉村 真一	県商工会議所連合会会頭
理事	清水 泉	高知銀行頭取
理事	渡辺 文雄	高知県総務部長
監事	木下 武良	高知県教育委員会事務局教育次長
監事	森田 毅	高知市収入役

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 埋蔵文化財センターの概要

(1) 設立趣旨

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うとともに、埋蔵文化財愛護思想の普及啓蒙を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

1) 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

2) 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の整理及び保管を行う。

3) 埋蔵文化財の研究・普及啓蒙

埋蔵文化財について調査研究を行うとともに、その成果をもとに出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓蒙を図る。

4) 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること。

5) 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること。

(3) 設立年月日

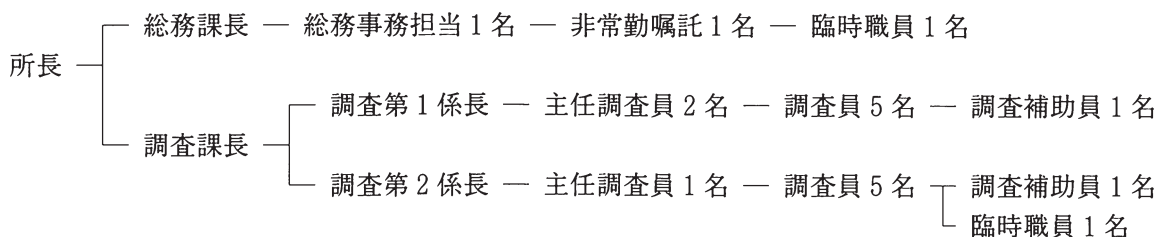
平成3年4月1日

(4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原南泉1437-1

2. 埋蔵文化財センターの組織

(1) 埋蔵文化財センター組織図



(2) 埋蔵文化財センター職員

職名	氏名	備考		
所長	原 雅 彦	高知県教育委員会文化振興課副参事		
総務課長	井 上 幸 雄	高知県教育委員会文化振興課主監		
総務担当	主 幹	三 浦 康 寛	高知県教育委員会文化振興課主幹	
	非常勤嘱託	西 岡 禎 子	高知県文化財団嘱託職員	
	臨時職員	東 村 愛	高知県文化財団臨時職員	
調査課長	明 神 睦 起	高知県教育委員会文化振興課主監		
調査担当	調査第1係	係 長	山 本 哲 也	高知県教育委員会文化振興課主幹
		主任調査員	出 原 恵 三	高知県教育委員会文化振興課主幹
		主任調査員	松 田 直 則	高知県教育委員会文化振興課主幹
		調 査 員	前 田 光 雄	高知県教育委員会文化振興課主事
		調 査 員	近 森 泰 子	高知県教育委員会文化振興課社会教育主事
		調 査 員	藤 方 正 治	高知県文化財団職員
		調 査 員	曾 我 貴 行	高知県文化財団職員
		調 査 員	池 澤 俊 幸	高知県教育委員会文化振興課社会教育主事
		調査補助員	武 吉 眞 裕	高知県文化財団嘱託職員
	調査第2係	係 長	森 田 尚 宏	高知県教育委員会文化振興課主幹
		主任調査員	廣 田 佳 久	高知県教育委員会文化振興課主幹
		調 査 員	江 戸 秀 輝	高知県教育委員会文化振興課社会教育主事
		調 査 員	山 崎 正 明	高知県教育委員会文化振興課社会教育主事
		調 査 員	松 村 信 博	高知県教育委員会文化振興課社会教育主事
		調 査 員	坂 本 憲 昭	高知県文化財団職員
		調 査 員	吉 成 承 三	高知県文化財団職員
		調査補助員	竹 村 三 菜	高知県文化財団嘱託職員
		臨時職員	山 崎 詠 子	高知県文化財団臨時職員

Ⅲ 年間事業の概要

1. 発掘調査事業

埋蔵文化財センターも開設3年目を迎え、今後に予定されている高知空港再拡張事業等の大規模開発に対応するための体制強化として整備が行われた。開設以来、専務理事が兼務していた所長に専任の所長が配置され、これと同時に業務の方も事業課長のもとに総務、調査担当で執行されていたが、本年度からは総務課、調査課の2課制となり、それぞれ専任の課長が配置された。また、県教育委員会との間での調査員の移動があったが増員はなく、さらに調査員の増員を含めた強化が必要である。県内の発掘調査については、市町村段階における調査体制の整備、延いては埋蔵文化財保存に対する基本的な取り組みの推進を図ることにより、県教育委員会、埋蔵文化財センターとの協力のもとにスムーズな発掘調査が行われることができると考えられる。この点からも、やはり市町村における専門職員の配置が急務である。

(1) 受託事業

平成5年度における受託事業は16件であり、県教育委員会（建設省からの再受託）、道路公団、県及び市、民間からの受託であった。16件中本調査は7件であり、昨年度に引き続き建設省からの受託事業である中村宿毛道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査である船戸遺跡を中心に、県道拡張、民間開発等による発掘調査であり、調査面積は合計約12,990㎡であった。

中村宿毛道路関連遺跡としては船戸遺跡の発掘調査が本年度行われ終了したが、平成6年度以降には、以前に河川改修に伴う発掘調査が行われた具同中山遺跡群の範囲に調査が進む予定である。また、道路公団関係では、本年度より本調査に着手しており、栄工田遺跡・長畝遺跡・尾立遺跡の調査が行われた。県関係では県道拡幅工事により秦泉寺廃寺跡・下分遠崎遺跡が県からの委託により、高知市からの委託では浦戸城跡、民間委託としては金地遺跡の本調査が行われた。

試掘・確認調査は8件行われており、国道バイパス関連で1件、道路公団関係では福井遺跡・奥谷南遺跡の2件、県関係では県道建設に伴い池長崎遺跡、坂本ダム建設では池ノ上・楠山遺跡、施設建設に伴う柳田遺跡の調査が行われた。高知市の委託では店舗建設による事前の試掘調査として柳田遺跡、また、民間開発では蚊居田土居城跡の試掘調査が実施された。調査面積は合計約4,020㎡であった。

(2) 調査員派遣事業

調査員派遣による発掘調査は16件であり、調査件数からすれば平成4年度に較べ減少しているが、調査面積は21,570㎡とほぼ倍増している。派遣の対象としては、学術調査をはじめとして各種開発による緊急調査や試掘調査であり、場合によっては調査期間、調査経費に限界があり非常に厳しい条件であった。

調査員派遣に係る発掘調査の中で、圃場整備事業及び開発に伴う緊急調査は次のとおりであり、調査面積は18,460㎡である。

土佐山田町－久次遺跡カリヤガノ地区 佐川町－岩井口遺跡・二ノ部城跡・二ノ部遺跡
 南国市－土佐国分寺跡 中村市－国見遺跡 春野町－芳原城跡・西畑遺跡
 本山町－本山土居城跡 東津野村－北川遺跡

学術・確認調査による派遣は次のとおり6件であり、調査面積は3,010㎡であった。

高知県－高知城跡 南国市－土佐国分寺跡 本山町－松ノ木遺跡
 十和村－十川駄場崎遺跡 野市町－大崎山古墳

その他、県教育委員会の調査及び調査員派遣として4件の調査が行われており、調査面積は730㎡であった。また、土佐山田町教育委員会によって圃場整備事業に伴う試掘調査1件が実施され、調査面積は180㎡であった。

大正町－江師遺跡 大野見村－宮野々遺跡 窪川町－川口遺跡
 土佐山田町－工科大建設予定地・新改西部遺跡群

以上の発掘調査以外に3件の立会調査が行われており、面積は150㎡であった。

高知県－高知城跡堀 高知市－南屋敷跡 須崎市－国道バイパス建設関連

平成5年度 受託発掘調査

番号	遺跡名	調査略号	所在地	時代	種別	調査面積 (㎡)	調査期間	原因	委託者	調査主体
1	船戸遺跡	93-1 NF	中村市森沢	縄文～ 中世	祭祀 集落跡	6,000	H 5.4月～ H 6.2月	高規格道路建設	建設省 (県教委)	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
2	栄工田遺跡	93-3 SE	南国市岡豊町 定林寺	縄文～ 近世	集落跡	3,000	H 5.4月～ 10月	高速道路建設	道路公団	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
3	金地遺跡	93-5 NK	南国市金地北 籠西	弥生・ 中世	集落跡	500	H 5.5月	工場建設	民間業者	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
4	蚊居田土居城跡	93-6 KI	南国市里改田 字澤城	中世	城跡	600	H 5.6月	倉庫建設 (試掘調査)	民間業者	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
5	池長崎遺跡	93-8 NG	高知市池字長 崎	弥生～ 中世	散布地	1,500	H 5.6月～ 7月	県道建設 (試掘調査)	高知県	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
6	秦泉寺廃寺跡	93-13 KJ	高知市中秦泉 寺	古代	寺院跡	80	H 5.4月・ 7月	県道改良工事	高知県	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
7	柳田遺跡	93-16 KY	高知市朝倉	縄文～ 古墳	集落跡	140	H 5.8月	確認調査	高知市	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
8	浦戸城跡	93-17 UC	高知市浦戸字 城山	中世	城跡	610	H 5.8月～ 10月	国民宿舎建設	高知市	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
9	長畝遺跡	93-18 NN	南国市岡豊町 定林寺	弥生～ 古墳	土坑墓	1,500	H 5.5・10月 ～H 6.3月	高速道路建設	道路公団	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
10	尾立遺跡	93-19 KH	高知市尾立	弥生～ 近世	集落跡	900	H 5.10月～ 12月	高速道路建設	道路公団	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
11	下分遠崎遺跡	93-20 TZ	香我美郡香我 美町下分	弥生	集落跡	400	H 5.9月～ 10月	県道改良工事	高知県	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
12	池ノ上・楠山 遺跡	93-21 SI-SK	宿毛市橋上町 楠山	縄文・ 中世	散布地	800	H 5.9月～ 11月	ダム建設 (試掘調査)	高知県	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
13	柳田遺跡	93-24 KY	高知市朝倉	縄文～ 古墳	集落跡	180	H 5.12月	施設建設 (試掘調査)	高知県	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
14	池ノ内地区	93-25 SB	須崎市池ノ内	—	—	250	H 5.12月	国道建設 (試掘調査)	建設省	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
15	福井遺跡	93-32 KF	高知市福井	弥生～ 中世	集落跡	250	H 6.1月～ 2月	高速道路建設 (試掘調査)	道路公団	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
16	奥谷南遺跡	93-33 NOM	南国市岡豊町 小運	縄文	散布地	300	H 6.2月～ 3月	高速道路建設 (試掘調査)	道路公団	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター



平成5年度 受託発掘調査位置図



池ノ上遺跡



金地遺跡

平成5年度 調査員派遣発掘調査他

番号	遺跡名	調査略号	所在地	時代	種別	調査面積 (㎡)	調査期間	原因	原因者	調査主体
1	芳原城跡	93-2 YC	吾川郡春野町 芳原	中世	城跡	250	H5.4月	学術調査	春野町	春野町教育委員会
2	国見遺跡	93-4 KN	中村市国見	縄文～ 近世	集落跡	1,600	H5.5月 ～8月	学校建設	中村市	中村市教育委員会
3	高知城跡	93-7 KC	高知市丸ノ内	中世・ 近世	城跡	1,500	H5.7月 ～10月	確認調査	高知県	高知県教育委員会
4	江師遺跡	93-9 TE	幡多郡大正町 江師	縄文	散布地	120	H5.6月	施設建設 (試掘調査)	大正町	大正町教育委員会
5	岩井口遺跡	93-10SI	高岡郡佐川町 斗賀野 岩井口	弥生・ 中世	集落跡	1,270	H5.5月 ～9月	県道建設	高知県	佐川町教育委員会
6	二ノ部城跡	93-11NC	高岡郡佐川町 斗賀野 二ノ部	中世	城跡	150	H5.10月	県営圃場整備	高知県	佐川町教育委員会
7	二ノ部遺跡	93-12SN	高岡郡佐川町 斗賀野 二ノ部	弥生・ 中世	集落跡	4,860	H5.10月 ～H6.2月	県営圃場整備	高知県	佐川町教育委員会
8	土佐国分寺跡	93-14KB	南国市国分	古代	寺院跡	300	H5.6月 ～12月	学術調査	南国市	南国市教育委員会
9	十川駄場崎遺跡	93-15 TD5	幡多郡十和村 十川	縄文	集落跡	100	H5.6月 ～10月	学術調査	十和村	十和村教育委員会
10	宮野々遺跡	93-22OM	高岡郡大野見 村宮野々	弥生～ 古墳	散布地	100	H5.11月	学術調査	大野見村	大野見村教育委員会
11	川口遺跡	93-23KK	高岡郡窪川町 川口	縄文～ 弥生	散布地	250	H5.10月	県営圃場整備 (試掘調査)	高知県	窪川町教育委員会
12	高知城跡 (三ノ丸)	93-26KC	高知市丸ノ内	近世	城跡	100	H5.11月	学術調査	高知県教 委	高知県教育委員会
13	松ノ木遺跡	93-28 MMIV	長岡郡本山町 寺家	縄文～ 古墳	集落跡	1,000	H5.11月 ～H6.1月	学術調査	本山町	本山町教育委員会
14	久次遺跡 (林田・カリ ヤガノ地区)	93-29 YHK II	香美郡土佐山 田町久次	弥生～ 中世	集落跡	10,000	H5.9月 ～12月	県営圃場整備	高知県	土佐山田町教育委員 会
15	西畑遺跡	93-30 HS II	吾川郡春野町 西畑 字丈上	弥生～ 古代	散布地	200	H5.12月 ～H6.1月	県営圃場整備 (試掘調査)	高知県	春野町教育委員会
16	新改西部遺跡 群	93-31 YSW II	香美郡土佐山 田町久次 上改田	中世	散布地	180	H6.1月 ～3月	県営圃場整備 (試掘調査)	高知県	土佐山田町教育委員 会
17	土佐国分寺跡	93-34KB	南国市国分	古代	寺院跡	100	H5.6月	現状変更 (確認調査)	土佐国分 寺	南国市教育委員会
18	大崎山古墳	93-35 NOK	香美郡野市町 本村	古墳	古墳	10	H6.2月	学術調査	野市町	野市町教育委員会
19	本山土居城跡	93-36 MDC	長岡郡本山町 本山	中世	城跡	80	H6.2月	公園整備	本山町	本山町教育委員会
20	北川遺跡	93-37HK	高岡郡東津野 村北川	縄文	散布地	50	H6.2月	宅地造成	東津野村	東津野村教育委員会
21	工科大建設 予定地	93-39YI	香美郡土佐山 田町神ノ木	弥生～ 古墳	散布地	260	H6.3月	工科大建設 (試掘調査)	高知県	高知県教育委員会
22	高知城跡 (堀)	93-27KC	高知市丸ノ内	近世	城跡	50	H5.12月 ～1月	堀改修 (立会調査)	高知県教 委	高知県教育委員会
23	新荘地区	93-40SS	須崎市新荘	—	—	50	H5.6月	国道建設 (立会調査)	高知県教 委	高知県教育委員会
24	南御屋敷跡	93-38KM	高知市鷹匠町	近世	邸跡	50	H5.9月	排水施設 (立会調査)	高知市	高知市教育委員会



高知城跡



芳原城跡

2. 発掘調査報告書刊行・資料管理事業

本年度も発掘調査の実施に伴い整理作業を行い、当年度事業については報告書作成を行った。年間の事業量が増加する中で整理作業・報告書作成に関する業務の進捗は遅れており、今後の問題となっている。

平成4年度に着手した埋蔵文化財センター施設建設も本年度に完成し、外部保管していた遺物を搬入したが、新たな資料の増加もあり、遺物の整理・保管を十分実施することができなかった。

遺物以外の資料としては、図書資料の購入を行ったが、本年度も必要図書の一部の購入であり、来年度以降も図書資料の収集を進める予定である。また、県内外からの寄贈図書について整理・収蔵するとともに、県教育委員会において寄贈を受けた図書等についても当センターにおいて保管・管理を行っている。

報告書の刊行、遺物・写真等の貸出しについては以下のとおりである。

平成5年度 埋蔵文化財センター刊行報告書

シリーズ名	書名	所在地	発行者	執筆・編集者
高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第14集	金地遺跡Ⅱ	南国市金地	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター	藤方
高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第16集	下分遠崎遺跡	香美郡香我美町下分	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター	出原
高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第17集	柳田遺跡Ⅰ	高知市朝倉	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター	藤方・吉成・松村・森田
高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第18集	秦泉寺廃寺跡Ⅳ	高知市中秦泉寺	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター	山本・吉成

平成5年度 県・市町村教育委員会刊行報告書

シリーズ名	書名	所在地	発行者	執筆・編集者
高知県埋蔵文化財発掘調査報告書 第37集	高知県遺跡地図 — 高岡ブロック —	—————	高知県教育委員会	松田・門脇・寺川
高知県埋蔵文化財発掘調査報告書 第38集	高知県遺跡詳細分布調査概報 — 高岡ブロック —	—————	高知県教育委員会	松田・門脇・寺川
高知県埋蔵文化財発掘調査報告書 第39集	高知城跡Ⅰ	高知市丸ノ内	高知県教育委員会	近森
中村市埋蔵文化財調査報告書第7集	国見遺跡	中村市国見	中村市教育委員会	曾我

遺物等発掘調査資料の貸出

番号	借用者	貸出期間	貸出資料	貸出者
1	鳥根県立八雲立つ風土記の丘	平成5年9月6日～11月27日	伏原大塚古墳 子持壺1点・須恵質円筒埴輪1点	土佐山田町教育委員会 (埋蔵文化財センター保管)
2	〃	平成5年9月7日～11月30日	古津賀遺跡 石製模造品勾玉1点・土製模造品勾玉3点・手捏土器9点 具同中山遺跡群 須恵器杯2点・蓋杯1点・高杯1点・甗1点・蓋1点 田村遺跡群 弥生土器5点	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
3	〃	平成5年6月30日～7月31日	伏原大塚古墳・具同中山遺跡群・田村遺跡群遺物写真34枚	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
4	(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター・考古館	平成5年9月1日～10月22日	田村遺跡群 水田跡写真1枚	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

3. 普及啓蒙事業

本年度における普及啓蒙としては、発掘調査に伴う記者発表、現地説明会を行うと同時に中村市において「四万十の歴史を掘る」と題した展示会も実施された。また、高知県立歴史民俗資料館の企画展「土佐の古墳を掘る」も共催により行われ、その他各種研修会等への講師派遣、施設見学等が行われることにより、埋蔵文化財保護思想の推進に努めた。

(1) 記者発表・現地説明会等

発掘調査に伴う記者発表及び現地説明会が7遺跡で行われた。現地説明会への参加人数は60～350名ときわめて盛況であった。特に二ノ部遺跡（佐川町）、浦戸城跡（高知市）は参加人数も多く、地域における埋蔵文化財への関心の高さを知るとともに事前の広報等による案内が大きな影響をもつものと考えられる。

平成5年度 現地説明会等開催

番号	遺跡名	内容	開催日	会場	主催	参加人数
1	芳原城跡	現地説明会	平成5年6月26日(土)	吾川郡春野町芳原	春野町教育委員会	60名
2	船戸遺跡	記者発表	平成5年9月2日(木)	中村市森沢	埋蔵文化財センター	—
3	船戸遺跡	現地説明会	平成5年9月4日(土)	中村市森沢	埋蔵文化財センター	70名
4	浦戸城跡	現地説明会	平成5年9月12日(日)	高知市浦戸字城山	高知市教育委員会	200名
5	国見遺跡	記者発表	平成5年9月24日(金)	中村市国見	中村市教育委員会	—
6	国見遺跡	現地説明会	平成5年9月25日(土)	中村市国見	中村市教育委員会	100名
7	土佐国分寺跡	記者発表	平成5年12月18日(土)	南国市国分	南国市教育委員会	—
8	土佐国分寺跡	現地説明会	平成5年12月19日(日)	南国市国分	南国市教育委員会	50名
9	松ノ木遺跡	記者発表	平成6年1月20日(木)	長岡郡本山町寺家	本山町教育委員会	—
10	松ノ木遺跡	現地説明会	平成6年1月22日(土)	長岡郡本山町寺家	本山町教育委員会	60名
11	二ノ部遺跡	記者発表	平成6年1月28日(金)	高岡郡佐川町斗賀野二ノ部	佐川町教育委員会	—
12	二ノ部遺跡	現地説明会	平成6年1月29日(土)	高岡郡佐川町斗賀野二ノ部	佐川町教育委員会	350名



芳原城跡現地説明会



浦戸城跡現地説明会

(2) 展示会等

埋蔵文化財の保護を目的として普及活動を行っているところであるが、本年も高知県立歴史民俗資料館との共催事業として、第3回目の企画展「土佐の古墳を掘る」が開催された。最近の調査事例を含め、高知県の古墳を概観できる展示であり、好評を得るとともに特別企画として野市町兎田八幡宮所蔵の絵画銅剣も展示され、新資料として注目を集めていた。同時に古墳及び絵画銅剣に関する講演会も行われ、多数の参加者を得ることができた。

また、中村市においては県教育委員会と中村市教育委員会との共催により「四万十の歴史を掘る」－中筋川流域の遺跡展－も行われた。展示の内容は、中村～宿毛道路建設に伴う船戸遺跡の調査成果を中心として、現在までの中筋川流域の遺跡のあり方を展示したものであり、やはり同時に講演会が開催された。

他の事業としては、各種研修会等への講師の派遣、埋蔵文化財センターの見学、資料調査等の対応を行い、普及活動に努めた。

○ 展示会名 「土佐の古墳を掘る」－特別企画 新発見の銅剣－

会 場 高知県立歴史民俗資料館

期 間 平成6年1月22日～3月27日

講演会

日 時 平成6年1月29日

演 題 「土佐の古墳の諸問題」

講 師 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
調査第1係長 山本哲也

日 時 平成6年2月19日

演 題 「土佐山田町伏原大塚古墳の発掘調査」

講 師 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
主任調査員 廣田佳久

○ 展示会名 「四万十の歴史を掘る」

－中筋川流域の遺跡展－〔船戸遺跡の調査成果から〕

会 場 中村市中央公民館

期 間 平成6年1月29日～1月31日

講演会

日 時 平成6年1月30日

演 題 「土器から見た中世の流通」
及び
講 師 橋本久和氏 高槻市立埋蔵文化財調査センター

「遺跡からわかる南海大地震」

寒川 旭氏 通産省工業技術院地質調査所

「四万十川流域の縄文遺跡」

木村剛朗氏 中村市文化財保護審議会委員

「中筋川流域の中世遺跡」

松田直則 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター主任調査員

○ 講師派遣

- 講演 「土佐を掘る」— 考古学に観る土佐の歴史— 高知市中央公民館市民講座
- | | | | |
|-----|------------------------|----------------------------|------|
| 日 時 | 平成5年6月16日「原始の土佐と考古学」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査員 | 前田光雄 |
| 演 題 | | | |
| | | | |
| 講 師 | 平成5年6月23日「弥生時代の土佐」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 主任調査員 | 出原恵三 |
| | 平成5年6月30日「古墳と埴輪」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査員 | 曾我貴行 |
| | 平成5年7月7日「土佐の古代寺院」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査第1係長 | 山本哲也 |
| | 平成5年7月21日現地見学— 発掘と考古学— | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査第2係長 | 森田尚宏 |
- 講演 「土佐の民俗と歴史」高知市中央公民館高齢者教室 (金曜日コース)
- | | | | |
|-----|--------------------|----------------------------|------|
| 日 時 | 平成5年5月6日「土佐の弥生時代」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査第2係長 | 森田尚宏 |
| 演 題 | | | |
| | | | |
| 講 師 | 平成5年5月27日「土佐の古墳時代」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 主任調査員 | 廣田佳久 |
| | 平成5年7月8日「土佐の中世」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 主任調査員 | 松田直則 |
- 講演 「土佐の風土と民俗と歴史」高知市中央公民館高齢者教室 (木曜コース)
- | | | | |
|-----|----------------------------|----------------------------|------|
| 日 時 | 平成5年9月30日「土佐の古墳文化」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査第1係長 | 山本哲也 |
| 演 題 | | | |
| | | | |
| 講 師 | 平成5年11月4日「石の道具とその時代」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査第2係長 | 森田尚宏 |
| | 平成5年11月18日「土佐の戦国時代と城郭 (I)」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 主任調査員 | 松田直則 |
| | 平成5年12月2日「土佐の戦国時代と城郭 (II)」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 主任調査員 | 松田直則 |
| | 平成5年12月16日「原始の土器と土器づくり」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査員 | 前田光雄 |
| | 平成6年1月13日「古鏡川を掘る」 | | |
| | | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査員 | 吉成承三 |

講演 「土に埋れた歴史を知ろう」 野市町教育委員会

日時 平成5年10月23日

講師 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査第2係長 森田尚宏

○ 遺跡見学

夏休み子供体験学習「古代遺跡探訪」 中村市教育委員会

日時 平成5年8月5日

場所 船戸遺跡(中村市)

○ 施設見学

日時 平成6年3月23日

見学者 県政バス 90名(高知県)

○ 施設・資料調査

〔日時及び来所者〕	平成5年5月26日	大阪文化財センター	1名
	平成5年7月28日	北海道教育庁文化課	2名
	平成6年2月24日	三重県埋蔵文化財センター	2名
	平成6年3月24日	神奈川県立埋蔵文化財センター	3名

4. 研修事業他

本年度も奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターの研修に参加することにより、調査・研究の向上が図られた。また、各種会議等に参加することにより情報交換が行われた。

平成5年度 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研修

参加研修名	期間	参加者
一般研修	平成5年7月6日～8月11日	調査員 池澤 俊幸
埋蔵文化財基礎課程	平成5年5月27日～6月4日	主幹 三浦 康寛
遺跡測量課程	平成5年9月16日～10月15日	調査員 坂本 憲昭
環境考古課程	平成5年11月24日～12月10日	調査員 吉成 承三

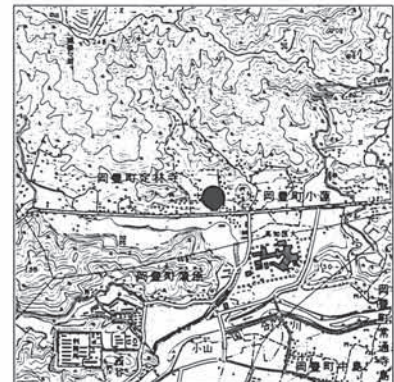
会 議 等 参 加

参加会議等	日時	参加者
全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会(岩手県)	平成5年6月14日～6月15日	原所長・森田調査第2係長
全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会(京都府)	平成5年10月21日～10月22日	原所長・森田調査第2係長・松田主任調査委員
全国埋蔵文化財法人連絡協議会中国・四国・九州ブロック会議(広島市)	平成5年11月18日～11月19日	原所長・井上総務課長・山本調査第1係長
第5回四国埋蔵文化財法人実務担当者会(香川県)	平成5年7月8日～7月9日	山本調査第1係長・松田調査員・藤方調査員
第6回四国埋蔵文化財法人実務担当者会(香川県)	平成5年11月25日～11月26日	井上総務課長・森田調査第2係長・曾我調査員

Ⅳ 発掘調査概要報告

栄工田遺跡 (93-3 SE)

1. 所在地 南国市岡豊町定林寺字栄工田・宮ノ前他
2. 立地 山地に続く丘陵の間の谷とその周辺の平地
3. 時代 縄文時代～近世
4. 調査期間 平成5年5月17日～12月6日
5. 調査面積 2400m²
6. 担当者 松村信博・江戸秀輝



7. 調査内容 今回の調査は、四国横断自動車道の関連工事に伴うものである。平成4年度の試掘調査の結果、約2000m²の範囲に縄文～近世の各時期の遺構・遺物を確認、幅3～6m、総延長450mの区間の本発掘調査を行うことになったのである。当遺跡は、昭和57年にビニールハウス建設に伴う発掘調査が行われ、縄文後期・晩期の土器が確認された。高知平野で初めて多量の縄文土器を出土した遺跡として有名である。

今回、縄文時代の遺物が大量に発見されたのは、昭和57年の調査地点から北西へ400m離れた地点である。ここで縄文時代の谷地形とそれが埋められる過程での生活痕が確認された。地山が東から西へ向かって傾斜、西端では地表面から2m以上の深さになっている。最深部に厚さ5cm程のアカホヤ堆積層があり、その上に火山灰の2次堆積土（黒色粘質土）が50～100cm程堆積している。この黒色粘質土層中から縄文後期初頭の中津式土器が出土した。高知平野で3例目である。深さ2mの谷は縄文後期の数回にわたる洪水で埋め尽くされた。ゴミ捨て場として利用されたのだろうか、猪・鹿の骨片が集中して見つかり、同じ場所から約20点の破損した磨製石斧（石材は蛇紋岩）が確認されている。谷が埋められた後形成された包含層には、縄文後期前半・中葉・晩期後半の各時期の遺物が含まれている。

弥生時代では前期末・中期前半・中期末の遺物が確認されたが量的には少ない。（中期末の完形の石槍は注目される。）これが、後期後半になると遺物量が急増、弥生後期～古墳初頭の溝が全域で10条も検出される等、周辺に規模の大きい集落が展開していたことが推察される。

古代以降についても、高知県初出土の11世紀の楠葉系黒色土器等いくつかの興味深い発見があった。今後検討していかなければならない課題も数多い。



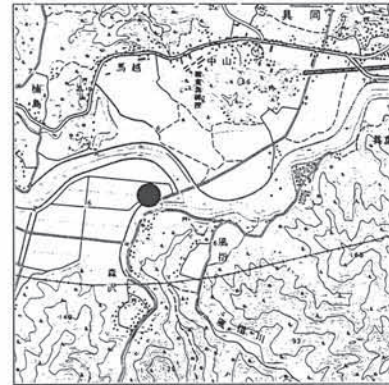
弥生後期末～古墳時代初頭 溝



縄文土器出土状況

ふなと
船戸遺跡 (93-1 NF)

1. 所在地 中村市森沢
2. 立地 中筋川右岸河岸段丘上
3. 時代 縄文時代～室町時代
4. 調査期間 平成5年4月～平成6年2月
5. 調査面積 6000m²
6. 担当者 松田直則・出原恵三・曾我貴行・坂本憲昭



7. 調査内容 船戸遺跡は、四万十川支流の中筋川流域に所在する。中筋川流域は、中村市から宿毛市にかけて広がる細長い平野が延びている。流域沿いには縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が多く所在している。古墳時代では、後川左岸の古津賀遺跡と共に祭祀遺跡として有名な具同中山遺跡群の調査が実施されており数多くの祭祀跡を検出している。さらに平安時代から室町時代にかけての集落跡も確認されており、中筋川下流域の中世遺跡は、中世寺院の香山寺との関連で各遺跡を捉えて行く必要があると考えられている。船戸遺跡は、中筋川と森沢川の合流地点に立地しており、中筋川を西から包みこむ小さな入江状の地形をしている。さらに中筋平野の大部分は、青灰色粘土層で覆われているが、所々に戸内層と呼ばれる硬い礫層が残存しており船戸遺跡の一部もこの硬い礫層の上に載っている。船戸遺跡の調査は、縄文時代前期・後期と古墳時代、古代から戦国時代までの長きにわたる人々の生活の跡を確認することができた。その中で特に重要と考えられる縄文時代と平安時代から鎌倉時代の概要を紹介して行くことにする。

縄文時代の船戸遺跡は、今日と大きく立地景観が変化しており、中筋平野に南から突き出した舌状の段丘状地形となっている。段丘上の平坦部に竪穴住居などを構え居住空間化していた様子が窺えるが、これらの遺構は後世の開墾に伴う削平によって全て削り取られており今回の調査では確認することができなかった。しかし、段丘の斜面からは大量の土器を中心とする縄文時代の遺物を発見することができた。縄文時代前期の遺物としては、少量の石鏃とフレイクチップだがこの石材は大分県の姫島産の黒曜石が使われている。豊後水道を挟んで6000年前の人々の文化交流を知る上で貴重な資料を提供することができた。遺物の中で多量に出土したのは、後期後半に属する深鉢や浅鉢である。宇和島市の伊吹町遺跡で型式設定されたもので、これらの土器群を伊吹町式土器と呼んでいる。今回出土した土器群は、これまで伊吹町式土器が出土した遺跡と比較して、より充実した内容をもつ

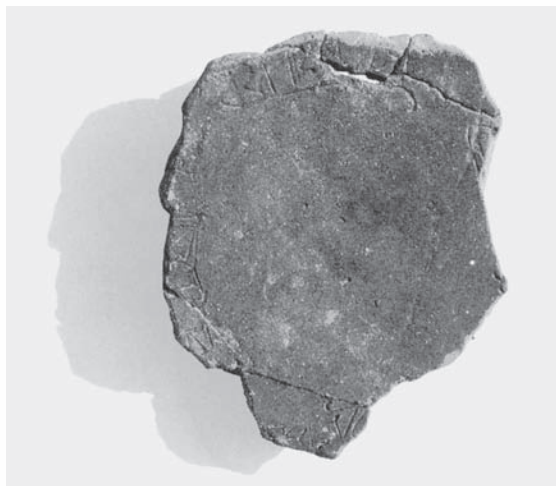


船戸遺跡全景

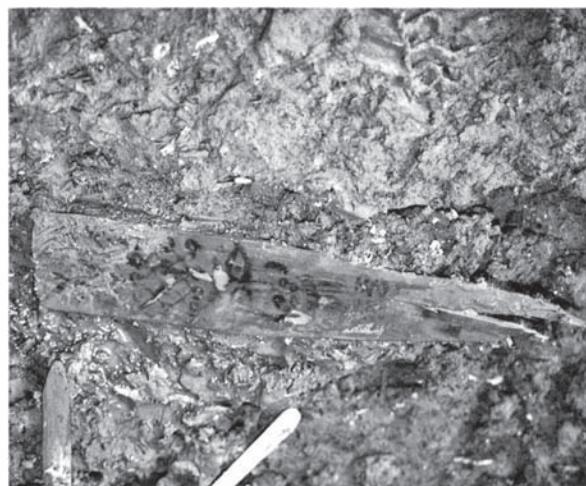
ている。船戸遺跡出土の土器群は、その組成や文様のバリエーション、さらに伊吹町式土器群のもっている文化内容を明らかにする上で、最も重要な遺跡として位置付けることができる。その中で最も注目された遺物は、伊吹町式土器群に伴って出土した線刻画土器である。この土器の器形は、蓋か高杯の杯部分か不明確であるが、内面にヘラ状工具の先端で描かれた文様が確認できた。文様構成は、欠損部分が多いため明確にすることはできないが、動物と考えられる文様が周縁に連続的な描写で描かれている。

平安時代では、溝1条及び掘立柱建物跡を検出した。溝の規模は、幅1.5m、深さ1m前後で確認延長25mを測り、鎌倉時代の溝と重複しているが大量の土師器群が出土した。平安時代の土師器群がまとまって出土した遺跡は県下でも数少なく、さらに土師器群と共に京都の篠窯産の須恵器鉢が出土している点が注目された。篠窯の製品が出土したことにより、京都周辺からの流通の一端を知ることができることと、細かい編年がなされている篠窯産の製品から、溝出土の土師器群に年代を与えることができることである。

鎌倉時代の溝は、古代の溝と流れが同じで規模も同様である。この溝からは、土師器や瓦器と共に木製品や竹製品が出土している。さらにこれらの遺物の中には、朱で鮮やかな文様を描いた漆器の椀や青磁などの高級品が含まれているが、その多くは人々の生活に密着したもののばかりで当時の日常生活の様子が窺える。瓦器製品と共に呪符が出土しており、精神生活を知る上で貴重な発見があった。呪符は、中央に鬼の姿を墨で描きその下に「鬼」を5文字書いている。鬼の姿の上には、「月」を3列4文字で書いている。この集落で、疫病などが流行した時におはらいをして、終わった後で溝に流したものと考えられる。その他注目される遺物として、木製品では下駄や箸・籠等があり石製品では錨が出土している。さらに大阪の和泉地方で焼かれた瓦器製品が、商品として船戸遺跡に運ばれており、鎌倉時代の商品流通に一役かった遺跡である点も見逃してはならない点である。川舟の錨と考えられる石製品の出土は、遺跡の性格を考えて行く上で重要である。船戸遺跡は、地形・環境からみて中筋川を宿毛方面に上る、川舟の停泊地の様な役割をはたしていたことを窺い知ることができる。平安時代から室町時代にかけて、水運に関連した遺跡の調査は県下でも初めてのことであり、今回の調査は中村の中世史研究に多くの資料を提供することができた。



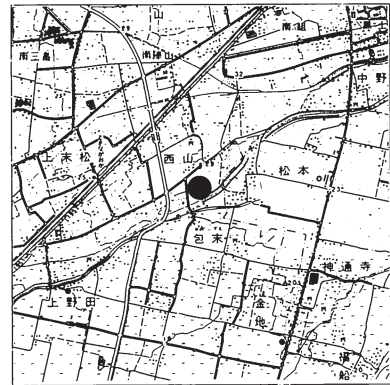
縄文後期線刻画土器



呪符出土状況

かなじ
金地遺跡 (93-5 NK)

1. 所在地 南国市金地北籠
2. 立地 長岡台地崖下小段丘上
3. 時代 弥生・鎌倉・室町時代
4. 調査期間 平成5年5月12日～6月8日
5. 調査面積 500m²
6. 担当者 藤方正治・近森泰子

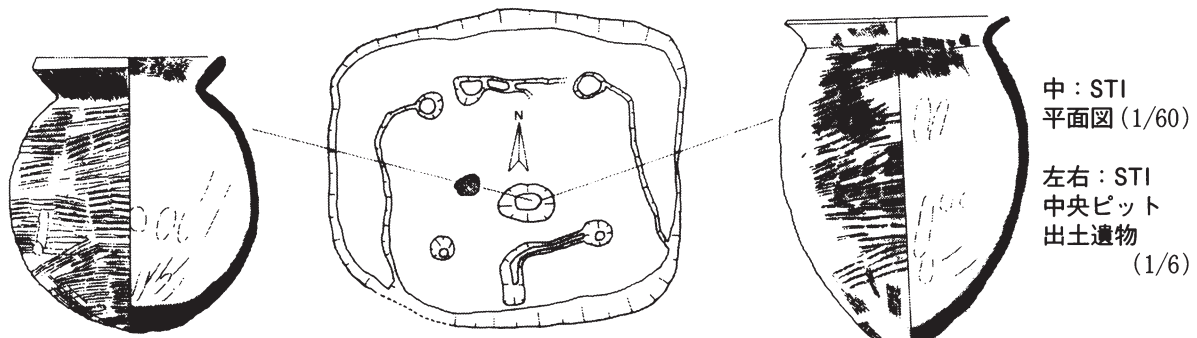


7. 調査内容 金地遺跡域の北側は最終間氷期の河川堆積物で構成される長岡台地であり、南側には現物部川による沖積地が広がっている。遺跡域には最終氷期に於いて河川による浸食を受けて小段丘化した部分が存在する。遺跡内に於ける遺構検出面は、黒褐色土と茶褐色土であり、これ以下には長岡台地と同様な成因を持つ円礫と粗砂の堆積層である。

昨年度調査区に東接する幅10mで調査を行い、弥生時代後期末の住居址2棟と溝状遺構、柱穴を検出した。住居址の内、1棟は東西5.6m、南北5.0mの隅丸方形を呈するものであり、南辺を除く三辺に幅60～80cmの高床部をもつ。この高床部は、住居の中央部から壁方向へ緩やかに立ち上がるよう、地山を削り取った上に黒色土を含む砂礫で盛り土して形成されている。支柱穴は4個で高床部より内側に設けられており、中央やや南寄りに楕円形の中央ピットと台石が存在した。また、住居址内床面には部分的に小溝が設けられている。もう1棟の住居址は、調査区の北部でプランの約半分を検出したものであり、周辺の攪乱や後世に於ける改変が遺構に至るものが多く、隅丸方形か多角形の平面形を取ると考えられている。一辺は約5mであり、壁際から幅1mの高床部が存在する。住居址の中央やや南に中央ピットが存在し、これに接して偏平な河原石が床面上に存在した。

検出遺構としては、他に幅30cm、深さ30cm程度の溝状遺構が存在するが、形態的には前回、前々回の調査検出遺構と似ており、中世に於いて機能していたものと考えられる。又、柱穴は、前回調査の掘立柱建物に伴う柱穴群の一部と考えられる。

上の住居址二棟からの出土遺物は前者に於いて、実測可能なもの約80点であった。その内訳は、主に甕と鉢で占められる。この2器種の形態を概観すると、底部に於いては狭い平底を呈するもの、丸底を意識する平底が多く、完全な丸底は少ない。調整等の共通点が多い中で、甕では胴部楕円球のものが多く、球形のものが少ない。又、鉢では器高指数や容量による分類が可能である。後者からは、攪乱等の影響か数量は少なかったが、台付鉢や紡錘車が見られた。



くにみ
国見遺跡 (93-4 NK)

1. 所在地 中村市国見字ダバ
2. 立地 中筋川左岸の低丘陵上(標高約7m)
3. 時代 縄文時代～近世
4. 調査期間 平成5年5月11日～9月2日
5. 調査面積 1,600㎡
6. 担当者 曾我貴行



7. 調査内容 国見遺跡は中村市在住の木村剛朗氏によって発見された遺跡で、縄文時代早期～中世の遺跡として広く知られている。今次調査は学校建設に伴う緊急発掘調査であり、事前の試掘調査では縄文時代後期から中世に亙る幅広い時代の遺物、及びピット状遺構等が確認されていた。

本年度の調査では、縄文時代早期を最古のものとして、弥生時代・古墳時代・平安時代・戦国時代・近世という各時代の人々の足跡を国見遺跡に認めることができた。中でも弥生時代前期の住居址状遺構が確認できたことは特筆すべきであろう。この遺構は、平面形が長径約6m、短径約4mの楕円形を呈し、また遺構の深さは後世の削平のためにわずか15cm程度という、浅い凹み状のものである。しかし残された遺構埋土の中から壺・甕・蓋・鉢等の弥生土器片約300点が出土し、また床面からは径10cmほどの小規模な柱穴約30基を検出することができた。住居の上部構造を支える支柱穴は認められないが、遺物の出土状況等から、住居址とみることができる。従来、高知県西部地域において、弥生時代前期の住居址は未検出であったが、今次の成果によって当地域の住居及び集落等に関する貴重な資料が得られたといえよう。

縄文時代に関しては、早期の押型文土器、中期・後期の土器・石器、及び後期の集石遺構・ピット状遺構等が検出されているが、特に中期土器の出土は重要な成果の一つである。出土した中期の土器は殆どが細片であるが、点数は約200点を数える。そしてそれは、従来中期の資料の少なかった高知県において、多数の新資料を追加することとなった。なお、出土した中期土器は、瀬戸内を中心に広く分布する船元式土器・里木式土器であり、当地域も船元式土器の文化圏の中にあつたことを物語っている。

以上に挙げた以外では、古墳時代中期～後期の土師器・須恵器・白玉が出土しており、中筋川・後川流域に顕著にみられる河川祭祀遺跡群との関連が窺われる。戦国時代では掘立柱建物跡と青磁等の遺物が認められ、付近に点在する山城跡との関連が想起される集落として位置付けられる。また江戸時代にも掘立柱建物跡が残されており、陶磁器等の出土から人々の生活が偲ばれる。そして単独ではあるが、平安時代の土師器も認められた。このように国見遺跡は中筋川流域で複数の時代に亙って機能し、また重要な位置を占めた遺跡であったことが、今次調査によって改めて明かとなった。



弥生時代前期の住居跡状遺構

しもぶんとうざき
下分遠崎遺跡 (93-20 TZ)

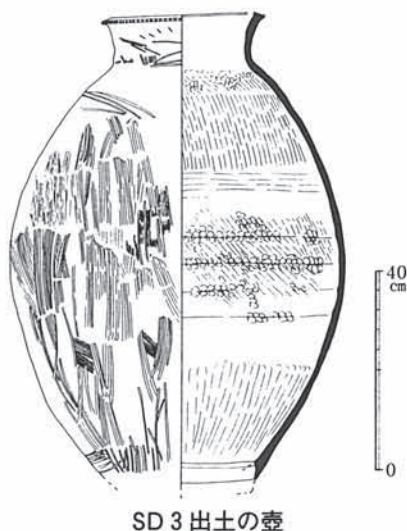
1. 所在地 香美郡香我美町下分
2. 立地 沖積平野
3. 時代 弥生時代
4. 調査期間 平成5年9月24日～10月31日
5. 調査面積 350m²
6. 担当者 出原恵三



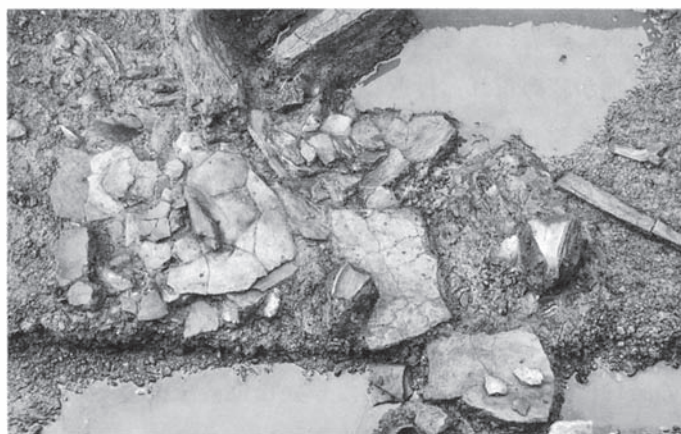
7. 調査内容 下分遠崎遺跡は、弥生時代前期・中期の木製品をはじめ、獣骨、植物遺体など自然遺物が出土する県下では数少ない遺跡である。今次調査は、1983年以来3度目の調査である。これまでの調査によって下分遠崎遺跡は、弥生時代前期末葉に成立し中期前半まで営まれた比較的短命な集落遺跡であることが判明している。竪穴住居址は確認されていないが、前期末・中期の掘立柱建物址や土坑・溝などが数多く検出されており、高知平野の周辺部における弥生文化の成立と展開を知る上において貴重な遺跡である。

今次調査は、県道拡幅工事に伴う小規模な調査であったが、弥生中期の土坑2基、同溝2条、弥生後期末の流路1条、および弥生前期の生活面と考えられる層準より集中出土の遺物を多く得ることができた。中期の溝SD3は、確認延長2mに過ぎないが幅2.6m、深さ40cmを測り、埋土上層は砂礫が堆積しており遺物も2次堆積の状況を示していたが、下層および床面から第Ⅱ様式併行期の良好な一括資料を検出することができた。図示した大型壺は、高さ90cmを測り底部を除いて完形復元できた。底部が擬口縁から剥離していることや出土状況から判断して、最初から意図的に底部を外して溝の中に横たえたものと考えられる。土器ではこの他に、鉢、甕、壺が出土しており、当該期のセット関係を理解する上で重要な資料となる。これらと共に着柄鋤の鋤先や杭状の木製品、ツキノワグマ（成獣、雌）の下顎骨が出土している。弥生時代の遺構からツキノワグマの骨が出土することは極めて僅少である。

SD3が出土の土器も含めて、前期末から中期前半にかけての地域色濃厚な土器が大量に出土したが、これらの土器は高知平野東部の固有の地域性を雄弁に語るものである。



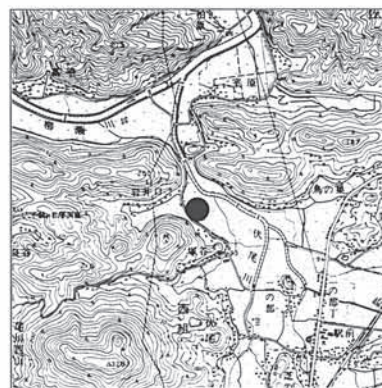
SD3 出土の壺



SD3 遺物出土状況（下層）

いわいぐち
岩井口遺跡 (93-10 SI)

1. 所在地 高岡郡佐川町斗賀野岩井口
2. 立地 低位河岸段丘上
3. 時代 弥生時代・鎌倉時代～室町時代
4. 調査期間 平成5年6月21日～9月10日
5. 調査面積 1,265㎡
6. 担当者 廣田佳久・山崎正明



7. 調査内容 当遺跡は平成2年度に実施した佐川町斗賀野地区県営圃場整備事業に伴う事前の試掘調査(国庫補助事業)で発見された遺跡である。遺跡は斗賀野盆地を北流する伏尾川左岸に形成された低位段丘上に立地し、岩井口の谷部の開口部両側に位置する。遺構は鬼界カルデラの噴火によって降り積もったアカホヤを掘削していた。平成4年度には佐川町斗賀野地区県営圃場整備事業に伴った発掘調査を当教育委員会が調査主体となり実施している。その調査では、弥生時代終末の竪穴住居跡を始めとして13～15世紀のものとみられる館跡(屋敷跡)が確認されている。さらに、1点ではあるが縄文時代後期とみられる石鏃も出土している。今回の調査は高知県が計画している県道本郷・斗賀野停車場線改良工事に伴うもので、対象となる部分は平成4年度の調査箇所(西側)の西4分の1にあたり、掘立柱建物跡を中心として土坑、溝跡などが遺存しているものと考えられた。

今回の調査で確認された遺構・遺物は、前回の調査に引続き、弥生時代後期後半のものと新たに中期の遺物、そして館跡(13～15世紀)に伴う掘立柱建物や土坑であった。

まず、弥生時代では終末期の土坑を確認した。長辺4.5m、短辺0.85mを測る舟形土溝で、前回の調査で確認した竪穴住居跡に隣接しており、貯蔵用として使用されていたのではなかろうか。遺構は確認されなかったが、中期のものとみられる扁平片刃石斧なども出土しており、周辺にはその時期遺構の存在も考えられる。

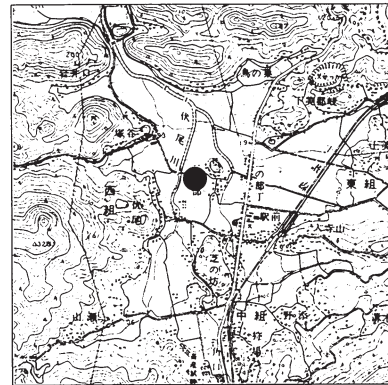
館跡は今回の調査によって、ほぼその全容が明らかになった。中世の屋敷跡と言えば県下では田村遺跡群のものが有名であるが、13世紀に遡る屋敷跡は今までに確認されておらず、さらに在地領主の屋敷は初めてであり、館の規模は東西約50m、南北約45mにおよび敷地面積は約2,250㎡で、当時の単位で言えば東西140尺、南北130尺、面積は丁度“二段(百代または720歩)”となる。この規模は、田村遺跡群の屋敷跡に2,000㎡を上回るものがないことから当時としては比較的大きな屋敷であったものと推測される。また、館を囲む2条の溝跡の存在や土塁の可能性等防衛的色彩が強いものと判断される。遺物では、多量の土師質土器に伴って瀬戸系の四耳壺(13世紀第2四半期)、瀬戸・美濃系のおろし皿(14世紀中頃)、備前の播鉢(14世紀中頃)などの搬入品が出土しており、土師質土器の編年並びに館跡の存続時期の決め手となっている。



遺構完掘状態

二ノ部城跡・遺跡 (93-11 NC・12 SN)

1. 所在地 高岡郡佐川町斗賀野二ノ部
2. 立地 斗賀野盆地の中央部の沖積平野
3. 時代 弥生時代・鎌倉時代～室町時代
4. 調査期間 平成5年9月20日～平成6年2月10日
5. 調査面積 5,100m²
6. 担当者 廣田佳久・山崎正明



7. 調査内容 二ノ部城跡及び二ノ部遺跡は共に斗賀野盆地の中央部に位置する遺跡で、二ノ部城跡は独立丘陵上に立地し、二ノ部遺跡はその南方山下に所在する。発掘調査は両遺跡とも県営圃場整備事業に伴うもので、佐川町教育委員会が調査主体となって実施した。

二ノ部遺跡は斗賀野全域を眺望できる位置に所在し、別名斗賀野城跡とも呼ばれ、『土佐国古城略史』には「元龜2年(1571年)米森幻蕃城に嬰て降らず、遂に戦死す。元親之を安並但馬に與ふ。」とある。現在は八幡神社が鎮座し、開墾等の痕跡も見受けられるが、詰、二ノ段、三ノ段とみられる段状部と堅堀1条を確認することができる。また、山下には城跡を取り囲むように堀の痕跡ではないかとみられる地割が残存する。今回調査対象地となったのは、この堀跡ではないかとみえられる田畑で、平成2年度に実施した事前の試掘調査では、堀の基底面ではないかと考えられる地表下約1mの部分から土師質土器を始めとして常滑の甕などが出土している。

本調査は、遺構に影響が及ぶと考えられる水路と道路部分に限って行った。その結果、試掘調査の際と同じく土師質土器を中心に当時の遺物が出土したが、堀の立ち上がりや土器の集中箇所を確認するには至らなかった。調査箇所が限定されたため断定できないが、この堀は地山を掘削して造った堀とみるよりか、河川を利用した自然の堀と考えたほうが妥当ではなかろうか。ただし、少なくとも要所要所には手を加えていたものと考えられ、また、春野町芳原城跡のように何箇所かには日常雑器を廃棄した場所もあったものと推察される。

二ノ部遺跡は平成2年度に実施した事前の試掘調査によって確認された遺跡であり、その範囲は14,000m²にも及ぶものと考えられた。遺跡は、斗賀野盆地のほぼ中央部、伏尾川右岸に形成された沖積平野に立地し、通称“谷田”と言われる地区に所在する。また、遺跡の南西には伏尾城跡、北東には二ノ部城跡が所在する。

今回調査対象となった部分は、削平される水田と水路および道路で、対象面積は約8,000m²であった。試掘調査の結果からすると遺構はほぼ全域に存在するものと推測されたが、本調査では地名に“谷田”とあるように旧地形が東西に起伏していることが判明し、南北に長い東西3箇所の微高地部分から遺構を検出することができた。これら確認された遺構は、弥生時代後期後半から終末期の集落跡と13～15世紀の住居跡である。

弥生時代の遺構では、4棟の竪穴住居跡、溝跡とピットなどが確認された。竪穴住居跡は、平面形が方形ないし隅丸方形を呈し、内2棟(1号住居跡・3号住居跡)からベット状遺構を検出した。1号住居跡は一辺約6m、主柱は4本とみられ、壁に沿ってコの字状の高床部を設けていた。この住居跡は廃

絶後に土器の投棄場となったとみえて、中央部を中心にコンテナケース約60箱にも及ぶ大量の土器が出土した。3号住居跡は一辺約4m、主柱は3～4本ではなかったかとみられる。この住居跡のベット状遺構は特殊で、まず、北壁に沿って高さ約25cmの三日月状の高床部を掘り残し、その上に三日月状の高床部を盛土により造り付けている。各々の形状が三日月状をなすという非常に珍しい形態のベット状遺構であり、換言すれば階段ベット状遺構とでも云えるものである。さらに、注目されたのは、最も高いベットの床面からこの時期のものとしては県下で初めて土製の勾玉が出土したことがある。伴出した手作づくり土器やミニチュア土器などと共に祭祀に使用されたものと考えられる。このようなことから判断すると祭祀的要素の強い形態とも考えられ、単に竪穴住居の形態を考えるに留まらず、祭祀形態を解明する上でも興味深い資料である。さらに、“ベット状遺構”の意味について考察する上でも極めて重要な事例であるといえよう。一方、このことは弥生時代最後の時期の祭祀形態、定形化した祭祀形態に移行する正に古墳時代前夜の祭祀形態と捉えることもでき、弥生時代の祭祀を考える上で貴重な資料である。

住居跡が確認された微高地から東へ約100mのところにある南北に細長い微高地では、その頂部に沿って掘られた断面V状をなす溝跡を確認した。時期的には、埋没していた土器から住居跡とほぼ同時期のものと考えられ、その掘削された状況からみて水田への用水路として役割を果たしていたのではなかろうか。

13～15世紀の住居跡は、3ヶ所で確認され、敷地規模は500～1,000㎡と推定される。これらの住居跡は数棟の掘立柱建物で構成されており、その規模は、梁間2～3間、桁行3～5間程度で、母屋とみられる建物は1～2面に庇を造り付け、かつ径約20～25cmと比較的大きな柱を使用している。最も広い敷地面積を誇る西端の住居跡は、埋土の異なる二種類の柱穴が存在することから2時期の変遷が考えられる。

平成4・5年度に調査したほぼ同時期の岩井口遺跡（館跡）と比較してみると、今回の住居跡は、半分以下の敷地面積で、また溝や土塁で住居を区画した痕跡は見られないが、母屋は比較的大きく、しっかりした造りであり、岩井口遺跡で見られた在地領主に付随する農民の住まいとはやや様相をことにする。このようなことからこの住居跡を見ると下級武士のすまいと考えるよりか比較的裕福な農家のすまいとみることができるのではなかろうか。

今回確認した中世の遺構はほぼ真北ラインに則り、現在の土地もそれをほぼ踏襲している。斗賀野地区には古代名称が残り、条理制の敷かれていた可能性が指摘されており、そのことは二ノ部地区に条理遺構が残存することを示しているのかもしれない。



二ノ部遺跡復元想像図



特殊なベット状遺構を持つ竪穴住居跡

よしはら

芳原城跡 (93-2 YC)

1. 所在地 吾川郡春野町芳原
2. 立地 独立丘陵
3. 時代 室町時代
4. 調査期間 平成5年4月～平成5年6月
5. 調査面積 250m²
6. 担当者 松田直則・竹村三菜



7. 調査内容 芳原城跡の発掘調査は、今回で第5次調査となった。前年度一部確認していた虎口部分とその斜面・馬出と考えられる平坦部の調査を実施した。虎口は、城の出入り口で防御と攻撃を兼ね備え、城の中で最も激しく変化し著しく発達した部分である。今回の調査では、虎口部分の中で掘立柱建物跡3棟、階段状遺構、枡形、小道状遺構、堀切、馬出を検出した。

掘立柱建物跡は、1間×2間の規模を持つもので城門と考えられる建物と、城門の東西に位置する基段状地形に構築された建物である。階段状遺構は、城門とされる建物の前面に階段状に数段削平されている。小道状遺構は、虎口の南側基段状地形の下方に位置する。馬出から木橋をわたり小道状遺構を通り虎口の階段状遺構に入ると考えられる。階段状遺構の前面は、急傾斜の斜面で堀切が掘削されている。堀切の確認できた規模は、幅3m、長さ14m、深さ4mを測る。馬出は、虎口前の掘対岸に造られた出撃用の曲輪で、攻撃機能を最も高めた施設と考えられている。馬出の規模は、短径6m、長径8mの小さな曲輪であるが、土塁・建物跡の痕跡は認められなかった。

今回の調査で虎口部分全体の様相が明らかになった。検出された虎口は、基段状の高まりに囲まれた枡形をもっている。さらに基段状地形の建物と城門は一段と虎口を強固にしている。城門の前は、階段状に削平され堀切にかかる木橋をわたり、馬出にくい構造となっている。さらにもう一つは、馬出から堀切にかかる木橋をわたり小道状遺構から城門に入る方法もとられている。このような芳原城跡の虎口構造は、15世紀後半から16世紀前半の時期を出土遺物から考えることができ、全国的にみても最も古いもので虎口の基準資料となり得る。

虎口構造は、織田信長・豊臣秀吉が全国統一の過程で各地に伝わったものと考えられており、長宗我部元親の岡豊城跡虎口も同様に考えられている。しかし吉原城跡の虎口検出は、畿内・東海地域に遅れることなく近世に繋がる独自の城の発達を、中世の土佐で重ねられていたことを証明する重要な発見になった。

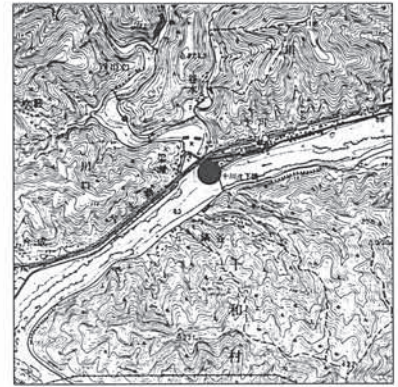


虎口部分

とうかわだばさき

十川駄場崎遺跡 (93-15 TD 5)

1. 所在地 幡多郡十和村十川
2. 立地 四万十川・長沢川合流地点低位段丘
3. 時代 縄文時代
4. 調査期間 平成5年6月21日～11月14日
5. 調査面積 100m²
6. 担当者 前田光雄



7. 調査内容 十川駄場崎遺跡は高知県西部の四万十川中流域の山間部の縄文時代草創時から後期にかけての遺跡で、四万十川とその支流である長沢川の合流地点に所在している。四万十川中流域の十和村では平野部は少なく、本遺跡の立地する十川は比較的広い段丘を形成している。四万十川中流域では縄文時代早期・前期に含まれる遺跡は多いものの、草創期に含まれ、また該期の土器を出土する遺跡は本遺跡のみである。昭和57年に村史編纂事業の一環として部分的な発掘が実施され、縄文時代前期の集石炉を検出している。昭和63年度の調査では長さ19.4cmと長大な尖頭器が出土している。また土器としては隆線文土器の可能性のある土器片が数点出土している。

調査は長沢川に面した北部分に約50m²のトレンチ2ヶ所と四万十川に面した南側部分に小トレンチを設定した。長沢川に面したトレンチ1区は川との比高差約10mを測り、川方向に傾斜を見せ、2m程の深さまで石鏃・石器剥片・石核・礫等が1万点以上にも及ぶ量で出土している。土器は早期の条痕文系土器、前期前半に含まれるものが出土している。文化層は傾斜地であるため、明確にはしえなかったものの、数面の生活面が考えられ、焼土跡等を検出している。住居跡・土坑等の遺構は検出されなかったものの、剥片素材を集積した所を2ヶ所検出しており、数個体の接合資料を得ることができた。傍らには台石、敲石も出土しており、石器製作跡と考えられる。石材は在地の珪質頁岩が大部分を占めており、僅かに大分県姫島産の黒曜石が認められた。草創期の遺構・遺物については残念ながら検出できなかった。四万十川に面した南側のトレンチでは縄文時代後期中葉に属する伊吹町式を検出している。



遺物出土状態

うらと
浦戸城跡 (93-17 UC)

1. 所在地 高知市浦戸字城山
2. 立地 独立丘陵 (標高 59.07m)
3. 時代 戦国時代
4. 調査期間 平成5年8月12日～同年10月27日
5. 調査面積 611m²
6. 担当者 吉成承三・池澤俊幸



7. 調査内容 浦戸城跡は、土佐の戦国時代を代表する武将・長宗我部元親の最後の拠城である。城は、浦戸湾口に西から突出した半島状の台地の先端部に立地し、東は眼下に桂浜が、南には太平洋が広がり、北側は天然の良港となっている。『皆山集』所収の「浦戸古城跡図」によると、現在、坂本龍馬記念館と桂浜荘が建っている平坦面が詰ノ段であり、東北隅に五間四方の「天守」と思われる構えが見られる。天守台は標高59.07mの所にあり、上部平坦面は、東西約10m、南北16mを測る。現在、大山祇神社が鎮座する。「本城」と記されている詰ノ段から南へは、三段の石垣と思われるもので構成されている「水」に関する施設、それを両側から包み込むように西側は五間×三間、東側は十間×三間の出丸が見られる。今回、発掘調査を行った箇所は、詰ノ段の東側部分と、十間×三間の出丸部分にあたる部分であり、詰ノ段の東側を区画する石垣の一部と東側出丸部分を形成している石垣を斜面部より検出した。これらの石垣は、国民宿舎改築工事中に偶然発見されたものであり、遺構の残存状況は旧建物の影響により、上部の攪乱が著しい。詰ノ段で検出された石垣は、内壁と外壁の二重の構造になっており、内壁側は、長さ8m、高さ1m～1.5mで石垣が南北に続き、北端部で東方に折れ、東に1.5m伸びた所で切れている。外壁側は、長さ5m、高さ80cm～1.5mで石垣の基部が南北に続いている。石垣は野面積みで築かれており、石はほとんどが砂岩質の割り石を使っており、破片を間石として詰めている。石垣の裏側は、カットした地山面と石垣の裏側の間(50cm～1m)に裏込め石(10cm～20cm大)を詰めている。裏込めの中には、軒丸瓦、平瓦の破片が混入していた。東側出丸部分で検出された石垣は、上部は攪乱を受け存在しないが、基部が南北に続いている。北端部では、ほぼ直角に西方へ屈折し、4.6m伸びた所で切れているが地山は傾斜角25°で西方に向かって上がっており、詰ノ段に続く石垣の一部であると考えられる。北端部より南に11m伸びた所で一端切れているが、この地点より南では、長さ10.94m、幅1.5mで



浦戸城跡絵図



石垣

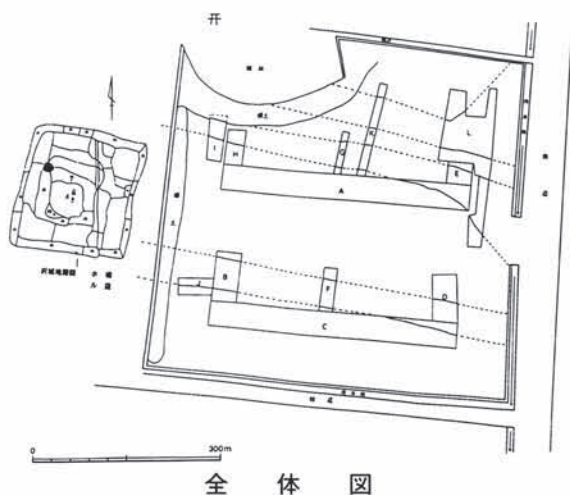
犬走り状の張り出し部を伴った石垣が続いている。この、張り出し部より、西方に二折れし、さらに東斜面南端部まで石垣が伸びている。東側出丸部分の南西部では、雁木を伴う石垣を検出している。内壁と外壁で構成されており、基底部幅5～6mで南北に伸びている。上部には横矢の狭間堀があった可能性も考えられる。今回の調査で検出された石垣は、後世の攪乱が著しく、遺構の残存状況は良好なものではなかったが、古城跡図に描かれている、縄張りとはほぼ同様のラインで石垣が検出されたことは、今後、浦戸城跡の縄張りの性格を解明していく上で非常に有機的な成果を得ることができた。また、石垣に伴って、多量の瓦の破片が出土しており、石垣の構築時期を知る上で貴重であるとともに、織豊期における土佐の城郭の変遷を知る上できわめて重要な資料である。

かいたどい 蚊居田土居城跡 (93-6 KY)

1. 所在地 南国市里改田字澤城1883～1885
2. 立地 物部川沖積平野
3. 時代 中世・近世
4. 調査期間 平成5年5月27日～同年6月18日
5. 調査面積 602.7m²
6. 担当者 吉成承三・山崎正明



7. 調査内容 蚊居田土居城跡は低湿地の土居城であり、別名「澤城」とも呼ばれている。今回の調査で設定した試掘トレンチ全てから、城跡の遺構と思われる堀を三条確認した。蚊居田村地検帳によると、長宗我部元親・盛親の頃(1591年頃～1600年頃)は蚊居田修理がその城主で、城は、40代の詰ノ城を中心に東と西に二ノ堀、南北に三ノ堀があったことがわかる。現在も三ノ堀の地字が残っており、城郭は九反余、土塁を加えると一町余の面積でほぼ正方形に近い形をしており、外堀と内堀で囲まれた重濠複郭式と推定されている。今回の調査対象地を旧地籍図と比較すると、南側トレンチで確認した堀は、城郭の南限を区画する外堀の一部ではないかと考えられる。又、北部トレンチで検出した堀は、旧地籍図では内堀は一条の構造になっているが、今回の調査で二条である事が判明した。三条の堀とも、湧水する深さまで堀込んでおり、伏流水を利用し水堀として機能していた可能性が強い。



堀検出状態

まつのき
松ノ木遺跡 (93-28 MMIV)

1. 所在地 長岡郡本山町寺家
2. 立地 吉野川上流中位段丘
3. 時代 縄文時代～近世
4. 調査期間 平成5年11月5日～平成6年1月31日
5. 調査面積 約1,000㎡
6. 担当者 前田光雄・出原恵三



7. 調査内容 本年度で4度目の調査となり、平成4年度の調査では県下初の縄文時代後期の住居跡1軒を検出した。住居跡内からは高知県西部の宿毛貝塚を標式とする後期前半の宿毛式土器が数点出土している。それ以前の平成2年度の調査では「土器捨て場」から宿毛式に後続する未命名の土器群が多量に出土し、本遺跡から「松ノ木式」と型式名を付与し、縄文時代後期の遺跡として西日本では注目されてきた。平成3年度の調査では縄文時代以外に弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての住居跡も3軒検出され、縄文時代だけではなく、弥生・古墳時代を含む複合遺跡であることが判明した。

平成5年度の調査でも弥生時代後期から古墳時代の住居跡をさらに7軒検出し、今回で合計10軒の住居跡を確認し山間部では最大級の集落となった。四国内でもこの時期の山間部に於ける集落の展開は極めて稀であり、今後縄文時代以外でも松ノ木遺跡は注目されそうである。

また住居跡以外には径1mの円形土坑、1.5m程の長方形の土坑も20基余り検出しており、土器以外に打製石庖丁、鉄製品、打製石斧等、また大型礫が出土しており、土坑墓の可能性が強く、幼児壺棺墓と考えられる土坑も検出している。

縄文時代としては、土器溜りから宿毛式・松ノ木式の大型破片がまとまって出土している。宿毛式に含まれるものはかつて標式遺跡の宿毛貝塚でも全体像を把握できるものは少なく、今回出土した宿毛式土器は西日本に分布する宿毛式と呼ばれてきた土器群の指針になるものと思われる。また丁寧な作りの浅鉢は松ノ木式のものに文様構成が通じるものであり、今後宿毛式から松ノ木式に変遷する過程を追えるものとして重要な意味を持ちそうである。

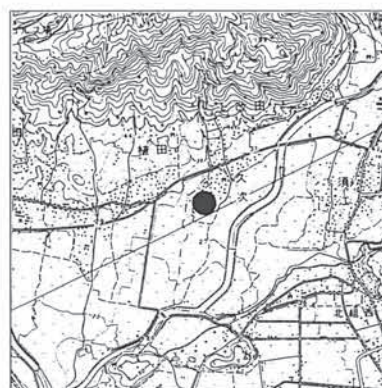
それ以外に中世のものとして小柄がピット内から出土しており、彫金で鯨の絵が施されているものが出土している。



遺 構 全 景

ひさつぎ はやしだ
久次遺跡・林田地区 (93-29 YHK II)

1. 所在地 香美郡土佐山田町久次林田
2. 立地 新改川形成扇状地
3. 時代 弥生・奈良・平安・鎌倉・室町時代
4. 調査期間 平成5年10月1日～12月9日
5. 調査面積 3,000m²
6. 担当者 藤方正治



7. 調査内容 久次遺跡は国分川の支流新改川が形成する扇状地に立地した遺跡群である。この一部を占める林田地区は、特に弥生時代後期後半から古墳時代前期初めと、中世に於ける生活痕が顕著である。

前者に相当する時期の遺構としては竪穴住居跡5棟が存在した。そのうち1棟は一辺7m、深さ約1mを測るものであり、保存状況は極めて良好であった。北側を除く三辺には幅約1mの版築による高床部を持ち、東側には幅1mの張り出し部が存在した。中央ピットはやや黒色を帯びた埋土を有して検出され、傍らには台石と考えられる偏平な河原石が床面に存在し、壁溝が周囲を巡る。ここからの出土遺物は多くはないが、埋土上部に見られる廃棄された様な土器破片と人頭大の河原石、床面や壁際で出土した完形に近い土器群であった。これらの遺構は、その立地で特徴的な性格を有している。先述の通り、ここは完新世に於ける扇状地地形であり、その網状に発達した流路には、ポイントバー (point bar) やシュートバー (shoot bar) などの微高地が見られる。先の住居址もこの地形を利用して存在していた。この事は、当時に於いては河川の影響が少なからず存在しており、居住域を守りながら、生産域としての水懸りの良い条件に在った旧流路を水田として利用していたものと考えられるのである。

後者に於けるこの地域の利用は数多く存在した柱穴群と、一部検出された溝状遺構である。これは幅3m以上、深さ1.5mを測るもので、地検帳にも表われる久次城の外堀と考えられる。また、この溝は底部に人頭大の角礫が多く存在しており、規模から見ても新改川に繋がる水上運搬能力を持つものであると考えられる。溝の外側には数多くの柱穴が検出されているが、これらは当地域の豪族居館と、その周辺に存在した在家の遺構と考えられるのである。そして、これらの遺構が旧流路の埋積土にその痕跡を止めていることから、この地が河川からの直接的な影響を被らなくなったのは、この時期以降であると考えられる。



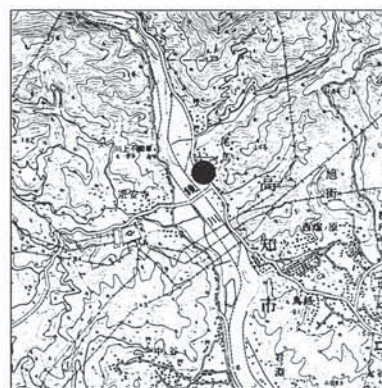
林田地区全景 (東より)



STI

ひじ 尾立遺跡 (93-19 KH)

1. 所在地 高知市尾立129-4 他
2. 立地 鏡川中流左岸の河岸段丘及びその周辺
3. 時代 古代～近世
4. 調査期間 平成5年10月15日～平成6年1月21日
5. 調査面積 約1,600m²
6. 担当者 江戸秀輝・松村信博



7. 調査内容 尾立遺跡は、高知市尾立の鏡川中流左岸の河岸段丘に所在する遺跡で、主に水田と畑への立地である。今回の調査は、四国横断自動車道建設工事に伴う事前の試掘調査及び本調査ということで、建設予定地内に、トレンチを5箇所設定し調査を行った結果、ほぼ全域から遺物が出土し、遺構も検出した。このため、遺構の検出されなかった最も川に近い一部分を除いた調査対象範囲について、全面的発掘調査を実施した。

今回の調査の結果、遺構については、古代から中世のものと考えられる土坑・柱穴・溝状遺構や、石列・集石・土手・杭跡等が検出されている。遺物については、弥生時代から近世までのものが出土している。調査区は、鏡川左岸の河原から山に遠く丘陵部近くまでを横断する形になっている。

川に近い、比較的低い調査区からは、過去の土手と思われる遺構が検出され、その部分及び周辺から多くの杭跡、柱穴や溝状遺構を検出した。土手の川側は河原石の堆積がみられ、また、周辺の土層の断面からは、幾度かの洪水の跡も確認でき、当時の、この地域での鏡川の状態を考察するための一資料にもなった。遺物については、古代の須恵器片・古代中世の土師器片等が出土している。

低地の調査区のうち、やや陸地よりの部分では、畔道のようなものとして利用されていたのではないかと考えられる石列（幅約3m程度で発掘区を横断）が検出している。古代の須恵器片が出土している。

段丘の上になると、多くの柱穴・土坑・溝状遺構等が検出されており、古代から中世にかけての生活面が2面3面と存在する部分が多くを占めていた。遺物については、古代の須恵器・古代中世の土師器が多く出土し、また、青磁や緑釉陶器や土錘の出土もあった。そして、弥生時代の土器片及び石鏃の出土もあった。これらより、古代から中世にかけて、この周辺には広く集落が展開しており、漁労や耕作が営まれていたものと考えられる。また、弥生時代の集落の存在の可能性も十分考えられる。



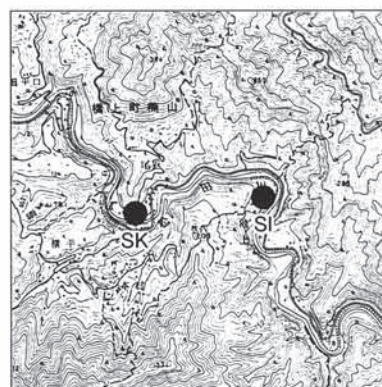
遺構検出状況



柱穴検出状況

いけ うえ くすやま
池ノ上・楠山遺跡 (93-21 SI・SK)

1. 所在地 宿毛市橋上町楠山
2. 立地 松田川上流段丘上
3. 時代 縄文時代
4. 調査期間 平成5年9月20日～12月7日
5. 調査面積 1,350m²
6. 担当者 松田知彦 (高知県教育委員会)・森田尚宏

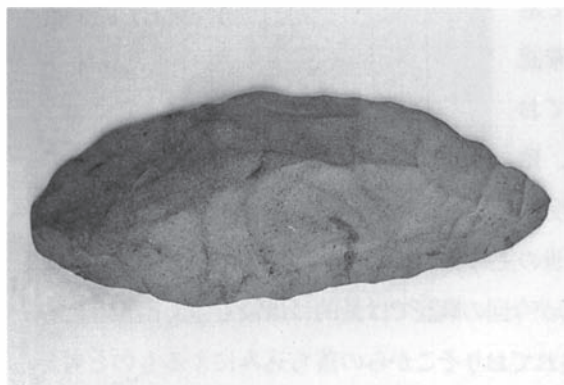


7. 調査内容 池ノ上・楠山遺跡は、愛媛県に源流を発し、宿毛湾に注ぐ松田川の上流域、河口より約20km上流の段丘面に位置している。池ノ上遺跡は松田川の右岸、楠山遺跡は池ノ上遺跡から上流約2kmの左岸に立地しており、標高は約80m～90m、松田川の河川水面からの比高は5m程度である。過去の分布調査により石鏃、打製石斧、剥片等が表採されており、両遺跡ともに縄文時代の遺跡ではあるが、その時期については不明であった。

調査の契機は、松田川の上流に計画された坂本ダムの建設であった。建設計画時に水没範囲内に位置する遺跡を確認したところ、池ノ上・楠山の両遺跡が該当することが判明し、保存について協議した結果、現状保存は不可能であり、記録保存を行うこととなった。本年度は本調査に先立ち試掘調査を実施することにより、遺跡の範囲、性格等を詳細に確認し、本調査実施への基礎資料を得ることとなった。

池ノ上遺跡では、19ヶ所 (1,160m²) のトレンチによる試掘を行った結果、縄文時代早期の押型文土器とともに石鏃、石核、剥片等の遺物が出土している。他に、全長19cm、断面三角形の分厚いやや特異な形態をした尖頭器も1点出土しており、他の石器に比べ表面の風化も進んでいるところから、草創期の遺物ではないかとも考えられ、注目される。さらに中世の遺物も若干出土したが、遺跡の大半は開墾等により削平、攪乱されており、残されている部分は縄文時代早期の遺物を出土した、段丘の先端部よりの範囲と考えられた。

楠山遺跡では、10ヶ所 (190m²) のトレンチにより試掘を行ったが、時間的制約もあり対象範囲の約半分程度の確認となった。調査の結果としては、池ノ上遺跡と同様に縄文時代早期の土器若干と石鏃、石核、剥片等を集中的に検出しており、同時期の包含層の存在が確認された。遺跡の残存状況としては池ノ上遺跡よりも良好であり、本調査が期待される。



池ノ上遺跡 出土尖頭器

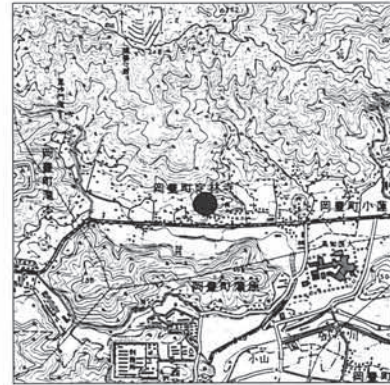


楠山遺跡 遺物出土状態

ながうね

長畝遺跡 (93-18 NN)

1. 所在地 南国市岡豊町定林寺字長畝
2. 立地 南に突出した標高約75mの丘陵上
3. 時代 弥生時代中期
4. 調査期間 平成6年1月6日～3月7日
5. 調査面積 約1,500㎡
6. 担当者 山本哲也・池澤俊幸
7. 調査内容 今回の調査は、四国横断自動車道の建設に伴うものである。当遺跡には、古墳状に隆起した地形が見られ、定林寺古墳群を構成する古墳の一つとして長畝2号墳が所在すると考えられてきたが、調査の結果古墳は確認されなかった。頂部及びその周辺では、薄い表土の下に岩盤が現れ、風化も著しい状況であったが、2つの土坑よりそれぞれ弥生時代中期中葉の壺、及び弥生土器片が出土した。また、これらと同時期の可能性のある長方形の土壙墓が一基、検出されている。

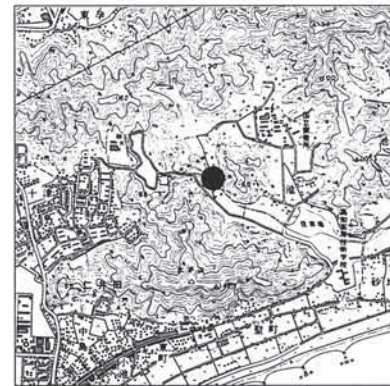


調査状況

いけながさき

池長崎遺跡 (93-8 NG)

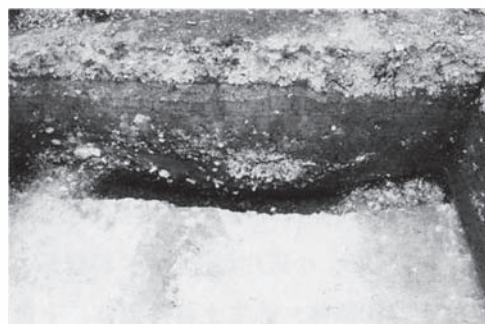
1. 所在地 高知市池
2. 立地 低湿地
3. 時代 弥生時代～中世
4. 調査期間 平成5年7月5日～8月13日
5. 調査面積 1,530㎡
6. 担当者 坂本憲昭
7. 調査内容 池長崎遺跡は、自然長寿村整備事業計画及び高知港改修事業（臨港道路）に先立つ試掘調査として行われた。池長崎遺跡からは正確な出土地点は不明であるが銅矛2本が出土しており今回の調査では集落跡の確認が期待されたが、調査地点が低湿地で自然流路となっており遺構の確認は行なえなかった。遺物の出土も少なく、殆どが粘土層と砂利層との境からの出土でローリングを受けており流れ込みと考えられる。出土遺物は弥生土器と中世の土師質土器が殆どであるが注目される遺物として緑釉陶器片が3点出土している。なお中世の土師質土器が今回の調査では量的には最も多く出土したが、今回の調査区に隣接する山上が中世の池城跡として確認されておりそこからの落ち込みによるものと考えられる。今回の調査地点については原景観は低湿地であったと考えられ本調査の必要はないものと判断された。



調査状況

じんぜんじはいじ
秦泉寺廃寺跡 (93-13 KJ)

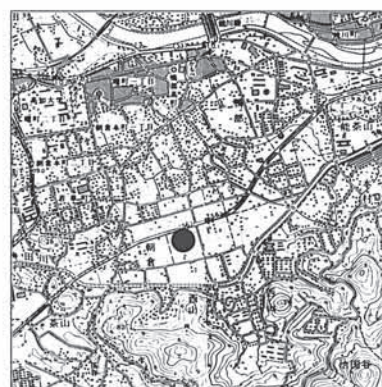
1. 所在地 高知市中秦泉寺字鍛冶屋ケ内135・139番地
2. 立地 金谷川右岸の扇状地
3. 時代 白鳳時代～平安時代
4. 調査期間 平成5年4月19日～5月14日
5. 調査面積 80m²
6. 担当者 吉成承三・山本哲也
7. 調査内容 秦泉寺廃寺跡について、昨年度に続き県道高知本山線交通安全施設等整備事業に伴う調査が実施された。対象地は県道の西側脇の宅地跡で、前年度調査区の北側に位置する。調査の結果、遺構等は検出されなかったが金谷川の氾濫を示す土層の堆積が認められ、寺域は調査区の西側に所在するものと考えられる。



トレンチ全景

やなぎだ
柳田遺跡 (93-16 KY)

1. 所在地 高知市朝倉甲
2. 立地 鏡川水系・沖積地
3. 時代 縄文・弥生・古墳時代
4. 調査期間 平成5年8月25日～9月14日
5. 調査面積 140m²
6. 担当者 藤方正治
7. 調査内容 1992年度調査区の南西約400mに位置する。調査対象地1,000m²の7か所に4m×5mのTPを設定して調査を行った。各TPに於ける堆積状況は主にシルトによるものであり、これは耕作土下約3m迄見られ、この下にはやや粘性の強い無遺物層が存在する。このシルト層からは多くの植物遺体と若干の遺物が出土した。遺構としては、流路肩部に配されたと考えられる杭列であり、これは二箇所で見出された。1つは標高4.5mで存在し、もう1つは標高3.5mに存在した。しかも、後者に於いては杭列は2列であり、これに挟まる形で径30cmの丸太材が存在していた。遺物は、流路の影響を受けており本来の位置を止めないが、縄文晩期深鉢の口縁部・弥生後期末の小鉢・古墳前期の甕と高杯であった。



前回の調査同様対象地は流路域であり、居住域とは隔たりを感じるものであるが、杭列に見られる廃棄河川又は自然堤防縁辺の水田等への利用は広範囲に及ぶものと考えられる。

かわぐち

川口遺跡 (93-23 KK)

1. 所在地 高岡郡窪川町川口
2. 立地 四万十川によって形成された河岸段丘上
3. 時代 縄文・弥生時代
4. 調査期間 平成5年10月4日～10月29日
5. 調査面積 419m²
6. 担当者 寺川 嗣 (高知県教育委員会)



7. 調査内容 今回の調査は県営圃場整備事業によって影響を受ける川口遺跡について、時代・性格及び範囲等を確認する目的として実施した。この調査により検出された遺物は、縄文土器(縄文時代後期)、弥生土器(弥生時代後期)、播鉢(中世)、姫島産黒曜石の剥片であり合計80点あまりである。小破片が多いが、口縁部・底部の個数から



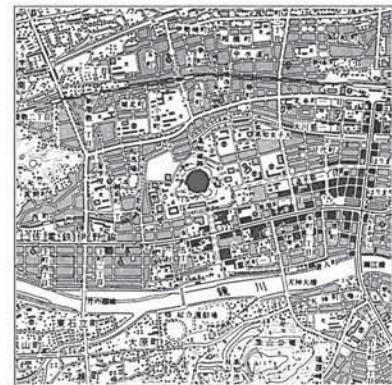
縄文土器20個体、弥生土器3個体、中世播鉢1個体程度の土器が予想される。縄文土器の特徴としては、沈線、磨消縄文などから宿毛タイプ及び松ノ木タイプに分類できる。弥生土器の特徴としては、タタキが確認できる。また、四万十川と井細川の合流地点近辺からは溝状遺構が検出された。

こうちじょう

みだいどころ

高知城跡・御台所屋敷跡 (93-7 KC)

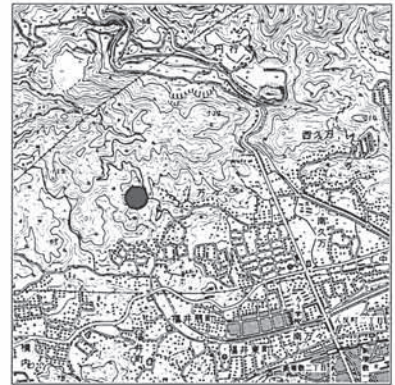
1. 所在地 高知市丸ノ内
2. 立地 独立丘陵
3. 時代 近世
4. 調査期間 平成5年7月12日～10月15日
5. 調査面積 500m²
6. 担当者 近森泰子



7. 調査内容 高知城跡は、土佐二十四万石に封ぜられた山内一豊により築城された近世城郭であり、国指定史跡となっている。城内の御台所屋敷には、戦後設置された高知市立動物園が存在していたが、その移転ともなう整備のために、今回確認調査が行われることとなった。御台所屋敷跡は斜面により上段と下段に分かれており、上段部では動物園により遺構はほとんど破壊されていたが地山の削平と盛土の状況を確認することができた。斜面部では石垣が検出されており、北半分は基部のみであるが、多量の裏込石が入っており、2～3mの石垣が存在していたようである。また、南半分は高さ2m程の石垣が続いていたが、明らかに新しいものであり、後世の石垣であった。石垣の基部と下段部には排水溝が検出されており、その先には大形の土坑が存在していた。土坑からは多量の瓦類とともに陶磁器が出土しており、その他貝類、魚骨、動物骨等も出土していることから、御台所屋敷の名称を持つ曲輪の性格を探る上で貴重な資料を得ることができた。

ふくい
福井遺跡 (93-32 KF)

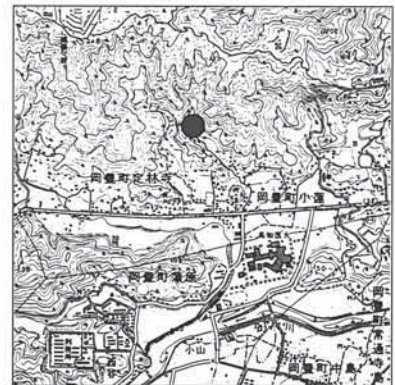
1. 所在地 高知市福井町字大谷屋敷1525他
2. 立地 丘陵の先端部・丘陵に挟まれた谷部
3. 時代 弥生時代～中世
4. 調査期間 平成6年1月24日～3月31日
5. 調査面積 約250m²
6. 担当者 江戸秀輝
7. 調査内容 今回の調査は、四国横断自動車道建設工事に伴う事前の試掘調査である。トレンチを21ヶ所設定し調査した結果、東側谷部からは、弥生土器が多量に出土した。丘陵先端部からは、弥生時代中期～後期の土器と中世の土師器が出土した。遺構は、土坑・柱穴・杭跡・溝状遺構等を検出した。西側谷部では古代の須恵器が出土しており、弥生時代の住居跡・谷水田や、中世の屋敷跡、土坑墓等、また、水に関する祭祀跡等の存在の可能性が大きく、弥生時代・古代・中世という時代における集落の存在が考えられる。



遺物出土状況

おくたにみなみ
奥谷南遺跡 (93-33 NOM)

1. 所在地 南国市岡豊町小蓮字奥谷他
2. 立地 南に開く谷及びその両側の尾根上(標高50～60m)
3. 時代 縄文時代～近世
4. 調査期間 平成6年2月23日～3月31日
5. 調査面積 400m²
6. 担当者 松村信博・池澤俊幸
7. 調査内容 今回の調査は、四国横断自動車道建設に伴う事前の試掘調査である。35ヶ所設定したトレンチ中、22ヶ所から遺物・遺構が確認され、縄文時代から近世の各時期に人々の生活が営まれていたことが判明した。当遺跡は縄文後期の遺跡として知られていたが、当該期の遺物(叩き石・石斧・土器)は谷北岸から出土している。また、西側の尾根上からは弥生中期の住居跡が一棟、東側の尾根上からは石列と弥生後期の土器が発見された。西側は高地性集落、東側は弥生後期の墓域の存在が予想され、本調査により遺跡の性格が明確にされることが期待される。

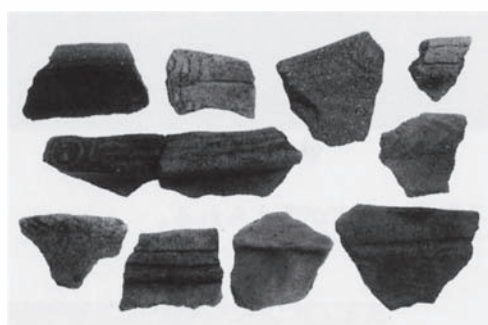


住居跡(弥生時代中期末)

きたがわ

北川遺跡 (93-37 HK)

1. 所在地 高岡郡東津野村北川98-1
2. 立地 北川右岸の河岸段丘上
3. 時代 縄文時代後期
4. 調査期間 平成6年2月14日～2月25日
5. 調査面積 54m²
6. 担当者 山崎正明
7. 調査内容 四万十川流域には河岸段丘を中心として多くの縄文遺跡が存在している。その上流域である東津野村も早期～後期の遺跡が確認されている。北川遺跡は昭和38年に発見された遺跡であるが、今回の小規模畑地整備に伴う調査によって多大な成果をおさめることになった。包含層出土の後期土器は約1,300点を数え、宿毛式土器・平城Ⅱ式土器を中心としている。また、わずかな調査範囲内から注口土器や石鏃(21点)・石斧・磨石



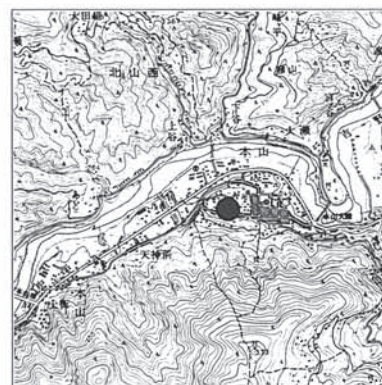
出土縄文土器

な調査範囲内から注口土器や石鏃(21点)・石斧・磨石が出土したことも注目される。石材は剥片約380点を含めて在地のチャートを主体とし、頁石・サヌカイト・姫島産黒曜石等を使用している。他に土坑も1基確認されており、これらは当時の生活を垣間見ることができる資料であるとともに縄文時代後期前半を検討する上で注目されるものとなり、北川遺跡の重要性が窺える。

もとやまどい

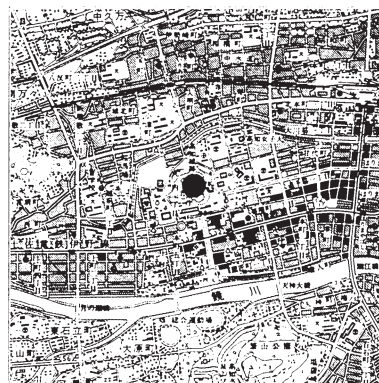
本山土居城跡 (93-36 MDC)

1. 所在地 長岡郡本山町本山
2. 立地 低位丘陵
3. 時代 古墳時代・中世・近世
4. 調査期間 平成6年2月21日～3月3日
5. 調査面積 30m²
6. 担当者 前田光雄
7. 調査内容 野中兼山、山内家家臣の屋敷跡の石垣の改修に伴う確認調査を実施した。南面の石垣に沿って内側に3ヶ所のトレンチ調査を実施した。石垣は藩政時代初期に築かれたものと考えられ、絵図には描かれていない裏門を確認している。石垣の南側地区には「裏門」という字名が残っており、一時的に裏門が存在し、明治時代以降に門を閉鎖したとみられる修復跡がみられ、今回は裏門の基礎部分を確認している。近世の遺物としては焼塩壺、また古墳時代初頭の甕も出土した。



こうちじょう
高知城跡・三の丸・堀 (93-26・27 KC)

1. 所在地 高知市丸ノ内
2. 立地 独立丘陵
3. 時代 近世
4. 調査期間 平成5年11月～平成6年1月
5. 調査面積 100m²
6. 担当者 近森泰子

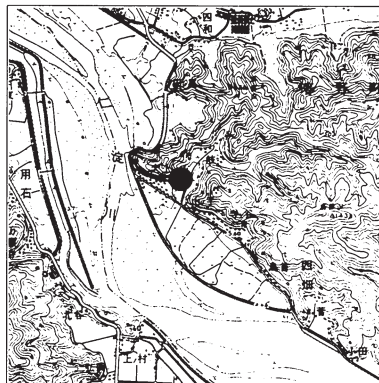


7. 調査内容 高知城跡の全体排水計画の作成と、三の丸における石垣の孕みに対して、その排水路の整備を行うこととなり、これに伴い三の丸の確認調査が行われた。調査は石垣排水溝の集水桝を中心に7ヶ所のトレンチにより実施されたが、各トレンチからは排水溝跡、さらには大書院跡とみられる基礎の一部が検出されている。排水溝跡はかなり破壊されているが、集水桝を中心に残されており、大書院跡もかなり残されていると考えられる。また、東面のトレンチでは石垣の一部ではないかとみられる石積みも発見されており、注目される。

また、堀の改修工事に伴う立会調査も行われた。堀の改修は西部から行われており、今回は4年目として東部の堀改修が行われた。改修は堀底のヘドロ浚渫と石垣の積み直しであり、工事に先立ち堀底と掘幅の再確認が行われたが、底、幅ともに残念ながら現地では遺構として確認できなかった。

さいはた おおがみ
西畑・大上遺跡 (93-30 HS II)

1. 所在地 吾川郡春野町西畑字大上
2. 立地 仁淀川東岸の自然堤防上
3. 時代 弥生時代
4. 調査期間 平成5年12月～平成6年2月
5. 調査面積 200m²
6. 担当者 近森泰子
7. 調査内容 西畑遺跡は仁淀川の河口から約3km上流の左岸に広がる河川低位面に立地する遺跡であり、圃場整備事業に伴う事前の確認調査が昨年度に引き続き実施された。昨年度は西畑大上遺跡で弥生、古墳、中世の各時代の遺物が確認されたが、その中心は中世であり、緑釉、白磁、瓦器碗が出土している。今回は、大上遺跡から岐川を隔てた対岸の水田を対象として調査が実施され、弥生土器を中心に石刃丁等の石器も出土しており、土坑、ピット、溝等の遺構も一部検出されている。遺跡としては仁淀川の自然堤防を利用した弥生時代の集落であり、かなりの湿田ではあるが、住居跡等が存在するものと考えられる。

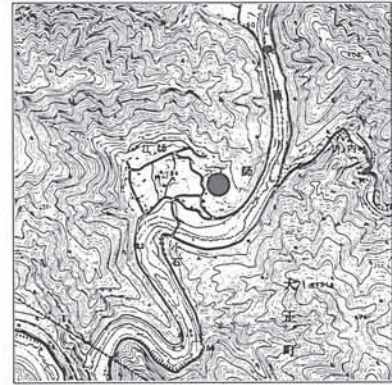


えし 江師遺跡 (93-9 TE)

1. 所在地 幡多郡大正町江師
2. 立地 禰原川右岸に接する低丘陵及び河岸段丘上
3. 時代 縄文時代・中世
4. 調査期間 平成5年6月14日～6月25日
5. 調査面積 約80m²
6. 担当者 松田知彦 (高知県教育委員会)

7. 調査内容 今回の調査では、縄文時代の遺構は検出できなかった。また、遺物についてもすべて表土層からの出土であり、遺物包含層はない。主な出土遺物は、縄文土器細片5点と石鏃4点である。土器片は、胎土中に石英・雲母片等を含む。細片のため紋様は確認できず、時期も特定できない。石鏃はチャート製が2点、頁岩製と珪質頁岩製が各1点である。時期は縄文時代に属する。現在まで本遺跡では、石鏃を中心とする遺物が多く表採

されているが、その地点は今回の調査区より比高差約10m下の地域一帯で、旧禰原川の河岸段丘端部と考えられる場所にあたる。当遺跡では、地形的に表土の流出が激しいと推測され、また過去に土砂崩れ等が頻繁に繰り返されていたとみられるので、遺跡の本体といえども遺構の残存率は低いことが予想される。ただ、地形的な落ちこみ等が有れば遺物が集中している可能性も残されている。今後、遺跡内の平坦地が開発されるようなことが有れば、埋蔵文化財の保護に十分な注意が払われるべきである。

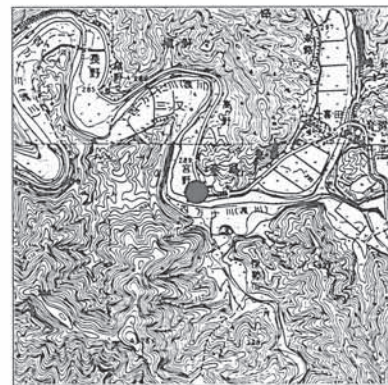


頁岩製石鏃

みやのの 宮野々遺跡 (93-22 OM)

1. 所在地 高岡郡大野見村宮野々
2. 立地 四万十川の河岸段丘上
3. 時代 弥生～古墳時代
4. 調査期間 平成5年10月25日～11月29日
5. 調査面積 100m²
6. 担当者 松田知彦 (高知県教育委員会)

7. 調査内容 宮野々遺跡は四万十川の上流域、大野見村に位置しており、四万十川の左岸にみられる河岸段丘上に立地している。段丘面は最大幅150m、全長500mほどであり、四万十川の段丘面としては中規模程度である。遺跡は段丘面のほぼ中央部に位置しており、畑地、水田等の耕作時に土器片が確認されていた。今回の調査は、当遺跡が大野見村では最も古い時期の遺跡となることから、その保存も考えられるための確認調査であった。調査の結果、弥生時代中期～後期と古墳時代の土器が出土しており、遺物包含層が確認された他、住居跡でないかとみられる竪穴状遺構も検出されており、四万十川上流域における弥生集落の存在が判明し、今後の調査に期待される。

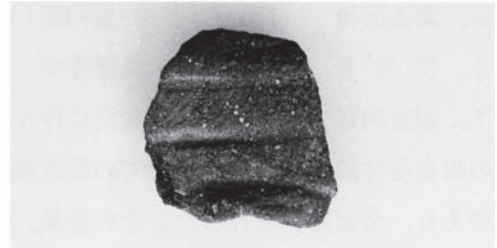


やなぎだ

柳田遺跡（福祉プラザ）（93-24 KY）

1. 所在地 高知市朝倉字柳田
2. 立地 旧鏡川流域沖積地
3. 時代 縄文時代・弥生時代・中世
4. 調査期間 平成5年12月6日～12月17日
5. 調査面積 200m²
6. 担当者 松田知彦（高知県教育委員会）・寺川 嗣（同）
7. 調査内容 柳田遺跡は、東西約1km南北約500mに及ぶ高知市でも最大級の遺跡である。今回の調査は、遺跡の西端に当たり「高知県福祉交流プラザ」建設に伴う確認調査として実施された。調査対象地は、西及び南側を神田川が東流し、東側を前田川が南流している。層序からみても、当初は

河川の本体であったものが、流路の変化により低湿地あるいは止水域へと変化した様子が窺える。遺構ははたたく確認できなかつた。遺物は、縄文後期土器片1点・弥生土器片数点・土師質土器片数点で、多くはローリングを激しく受けており、流れ込みによると考えられる。今後、遺跡の中心部が発掘調査されるようなことがあれば、多大な成果が期待できるであろう。



縄文後期土器片

おおさきやま

大崎山古墳（93-35 NOK）

1. 所在地 野市町本村字大崎山
2. 立地 丘陵東南斜面裾
3. 時代 古墳時代後期
4. 調査期間 平成6年2月7日～3月16日
5. 調査面積 10m²
6. 担当者 山本哲也
7. 調査内容 町指定史跡選定にともない調査が行われた。古墳は町道西脇に開口した横穴式石室を持つ後期古墳であり、早くからその所在が知られていた。調査の結果、羨道部及び墳丘東側部は後世の開墾により失われているものの、玄室部が遺存していることが判明した。石室は玄室長5.5m、玄室幅2m前後で、石室高は奥壁側で2.23mを測り、天井石は3枚残されていた。玄室は奥行き長い長方形プランで床面には礫敷が施されていた。使用石材は天井石の一部に珪岩が用いられている他はすべて硬質砂岩である。床面から、須恵器高杯・壺・甕・耳環・鉄釘・ガラス小玉等が出土した。なお、床面上部の堆積土からは中世の土鍋・土師質土器・瓦質土器等が出土しており石室の再利用が行われていたことが明らかである。この古墳は、石室の壁面構成・出土遺物等から野市町大谷の大谷古墳に先行して構築されたものと考えられ、六世紀後半初頭に築かれ後半末頃まで追葬が施されたとみられる。被葬者像としては、本村・曾我・兎田等の地域を掌握した豪族層の存在が推察される。



と き こ く ぶ ん じ
土佐国分寺跡 (93-14・34 KB)

1. 所在地 南国市国分
2. 立地 国分川右岸の微高地上
3. 時代 奈良～平安時代
4. 調査期間 平成5年5月10日～5月28日(参道・光明殿)
平成5年6月1日～8月9日()
平成5年10月19日～12月24日(第4次調査)



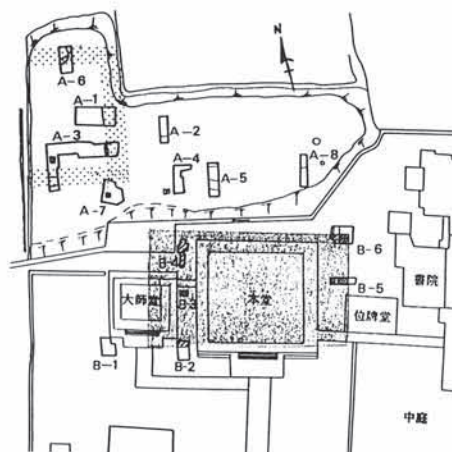
5. 調査面積 170㎡(参道・光明殿)・200㎡(第4次調査)

6. 担当者 山本哲也・池澤俊幸

7. 調査内容 史跡等現状変更に伴う調査と第4次学術調査が実施された。前者は、国分寺境内の庫裏受付前から南側にかけての参道部と参道東の位牌堂(光明殿)建設計画地を対象にしたものであり、全面調査を行った。その結果、近世の土坑・柱穴・ピット等を検出したものの寺院跡関連の遺構等は確認されず、標高12.60m前後で地山層の黄褐色粘質土・灰色砂礫土となっており主要遺構は形成されていないものと判断された。現金堂(本堂)周辺及び北側土壇、東側土塁等を対象とした第4次調査では、創建期の土佐国分寺金堂跡が確認されるなど、重要な成果が得られた。金堂跡は、現在の本堂及び大師堂にかけての範囲から版築を施した掘込地業が検出され、地業の北辺・東辺・南辺を確認した。形成範囲から、東西約30m南北18m(100尺×60尺)の枠内に金堂が建てられ、戦国期に長宗我部氏によって再興された現金堂(重要文化財)は旧金堂基壇を再利用して構築されていることがうかがわれる。金堂跡の北側では、土壇下より方形掘形を持つ柱穴・室町前半期の建物跡基壇・経塚等が検出され、経塚の埋甕(常滑焼)内から国産とみられる海獣葡萄鏡片(面径13.5cm前後)が出土した。土壇は講堂等の基壇ではなかったものの、金堂に取り付く回廊の一部とみられる柱穴が検出されていることから、講堂跡は土壇地形の北側に所在するものと考えられる。なお、東側土塁に設定した調査区からは、土塁の痕跡を示す段状地形と溝跡が検出されており、創建期の土塁が残存していることが再確認された。今回の調査成果から、土佐国分寺跡は東大寺式の伽藍配置をもち500尺四方の寺域を有する寺院であったと考えられる。



金堂基壇検出状態



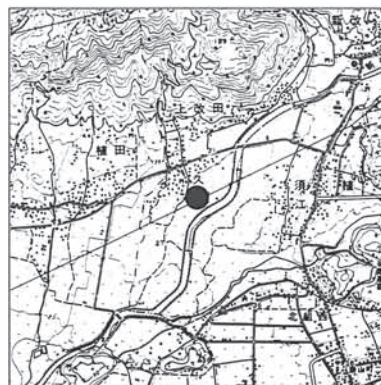
金堂基壇掘込地業の範囲

ひさつぐ
久次遺跡・カリヤガノ地区 (93-29 YHK II)

1. 所在地 香美郡土佐山田町久次字カリヤガノ
2. 立地 新改川右岸微高地上に立地
3. 時代 弥生時代～近世
4. 調査期間 平成5年9月1日～12月10日
5. 調査面積 5,000m²
6. 担当者 中山泰弘 (土佐山田町教育委員会)
7. 調査内容 久次遺跡は新改西部県営圃場整備事業に伴う事前の試掘調査が行われ遺構、遺物等が確認された。これによりカリヤガノ地区では試掘調査の結果を基に圃場整備に伴う本発掘調査を実施した。

調査の結果、弥生時代後期から江戸時代に至る複合遺跡であることが判明した。検出された遺構は、弥生時代後期末～古墳時代初頭の竪穴住居址7棟、古代の掘立柱建物址、中世の柱穴、溝等が多数確認された。特に古代の建物址はその規模、性格から官衙関連と考えられる。

出土遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、布目瓦、土師質土器、青磁、土鍋、陶磁器、粗製石包丁、鉄鏃、砥石等が出土した。

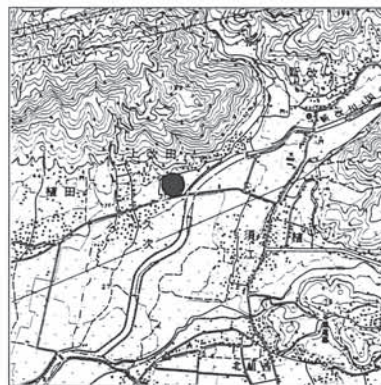


発掘区全景

しんがいせいぶ
新改西部遺跡群 (93-31 YSW II)

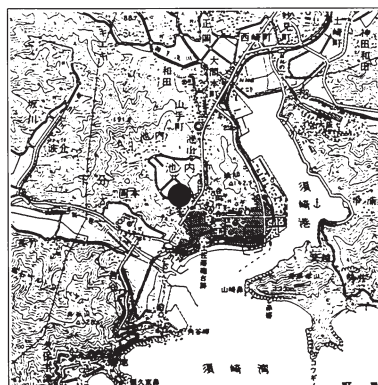
1. 所在地 香美郡土佐山田町久次、上改田
2. 立地 平地、丘陵端部
3. 時代 弥生時代～室町時代
4. 調査期間 平成5年11月2日～12月15日
5. 調査面積 104m²
6. 担当者 中山泰弘 (土佐山田町教育委員会)
7. 調査内容 新改西部県営圃場整備事業に伴う事前の埋蔵文化財確認調査である。圃場整備施工予定地内に26ヶ所のグリッドを設定し試掘調査を行った。

調査の結果、遺構は確認されなかったが極少量の遺物が出土した。しかし、これらの遺物は、須恵器以外の遺物はほとんどが細片であり、摩滅も多くみられる。なお、本調査区は1m近くまで、客土、バラスが確認でき、戦前、戦後を通じての土の入替えを実施している。



すさき いけのうち
須崎市池ノ内確認調査 (93-25 SB)

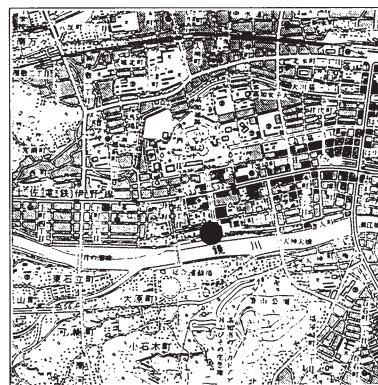
1. 所在地 須崎市池ノ内
2. 立地 須崎湾背後の後背湿地と開折谷による沖積平野
3. 時代 ——
4. 調査期間 平成5年12月8日～平成5年12月20日
5. 調査面積 252m²
6. 担当者 門脇 隆 (高知県教育委員会)
7. 調査内容 今回の調査は、建設省四国地方建設局土佐国道工事事務所が行う国道56号線須崎道路建設工事に伴い、工事予定区域内に所在する埋蔵文化財の有無について、工事に先立つ事前の確認調査を行うことにより、当該事業との円滑な調整を図ることを目的として実施した。



この調査において、周辺には増岡遺跡、竹の鼻遺跡、岡本城跡、須崎城跡等の弥生時代から中世にかけての遺跡が所在するため慎重に確認調査を行ったが、池ノ内地区計画ルート約25%が池であることもあり、設定した14本のトレンチすべてに遺構、遺物を確認することはできなかった。

みなみおやしき
南御屋敷跡立会調査 (93-38 KM)

1. 所在地 高知市鷹匠町
2. 立地 鏡川北岸の山内氏分家五家の一つ「南屋舗」の跡地
3. 時代 近世
4. 調査期間 平成5年10月1日
5. 調査対象面積 3,016m²
6. 担当者 門脇 隆 (高知県教育委員会)
7. 調査内容 今回の調査は、高知市みどり課が行う公園改修工事に伴い、池の改修及び排水溝の設置箇所にある埋蔵文化財の有無について立会調査を行い、当該事業との円滑な調整を図ることを目的として実施した。



この調査において、攪乱土中からではあるが近世陶磁器片が数点出土した。屋敷跡の道を隔てた東には山内家の別邸があり、現在も長屋が残っている。今後、大がかりな公園改修工事が実施されることになれば発掘調査が必要である。

このように、埋蔵文化財包蔵地として指定された箇所は勿論のことであるが、平成3年度の遺跡分布調査によって参考地として指定された高知郭中については、開発行為によって損なわれていく当時の実態をより鮮明に後世に伝えるためにも、今後も地道な調査を継続していくことが重要であるといえる。

V 条例・規則・規程等

高知県条例・規則

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成3年度3月20日条例第3号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(設置)

第1条 埋蔵文化財を発掘し、保存し、及び公開することにより、埋蔵文化財に対する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）を南国市に設置する。

(管理の委託)

第2条 教育委員会は、センターの管理に関する業務を財団法人高知県文化財団に委託することができる。

(委任)

第3条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、平成3年4月1日から施行する。

2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成3年3月26日教育委員会規則第5号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例（平成3年高知県条例第3号）第3条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター（以下「センター」という。）の管理について、必要な事項を定めるものとする。

(センターの利用)

第2条 センターを利用しようとする者（第4条において「利用者」という。）は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料（第4条において「埋蔵文化財等」という。）の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

(利用時間)

第3条 センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 教育委員会は、前項の規定にかかわらず、特に必要と認めるときは、同項の利用時間を変更す

ることができる。

(遵守事項)

第4条 利用者は次に掲げる事項を守らなければならない。

- 1 センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- 2 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 3 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(休所日)

第5条 センターの休所日は、次に掲げるとおりとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更し、又は臨時に休所日を設けることができる。

- 1 日曜日及び土曜日
- 2 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- 3 1月2日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで

(委任)

第6条 この規則に定めるもののほか、センターの管理及び運営に必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成4年7月18日から施行する。

財団法人高知県文化財団規程

3. 財団法人高知県文化財団組織規程

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、財団法人高知県文化財団（以下「財団」という。）の組織に関し必要な事項を定め、財団事務の適正かつ能率的な執行を図ることを目的とする。

(組織)

第2条 財団に事務局を置く。

- 2 事務局に右の表に掲げる機関を置き、その内部組織として課を置く。
- 3 理事長は、必要があると認めるときは、課に班又は係を置くことができる。

機 関	課 名
総 務 部	総 務 課
美 術 館	事 業 課・学 芸 課
歴 史 民 俗 資 料 館	事 業 課・学 芸 課
埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー	総 務 課・調 査 課
坂 本 龍 馬 記 念 館	
文 学 館 開 設 準 備 室	

第3章 事務分掌

(埋蔵文化財センターの分掌事務)

第8条 埋蔵文化財センターの分掌事務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 受託した高知県立埋蔵文化財センターの管理運営に関する事。
- (2) 所の予算及び決算に関する事。
- (3) 所の文書及び公印に関する事。
- (4) 所の職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (5) 埋蔵文化財の調査研究に関する事。
- (6) 埋蔵文化財の整理保存に関する事。

附 則

1 この規程は、平成3年4月1日から施行する。

2 財団法人高知県文化財団組織規程(平成2年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この規程は、平成3年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年9月6日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年11月15日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

高知県埋蔵文化財センター年報 3

1993年度

発行日 平成6年11月1日

編集・発行 (財)高知県文化財団
埋蔵文化財センター

印刷 (有)西村謄写堂